

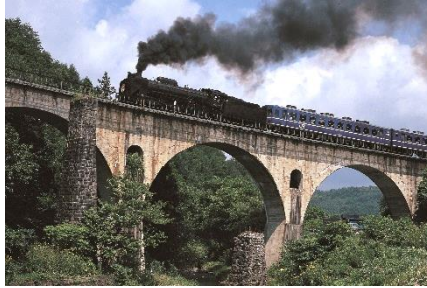


第73回

全国植樹祭 いわて 2023

緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から

実施計画（最終案）



 岩手県



【表紙写真】

※写真の使用については所有者の許可取得済

- | | |
|------------------------------|---|
| ①多様な樹種が彩る紅葉風景（八幡平市） | ②漆掻き作業の様子（二戸市：ユネスコ無形文化遺産） |
| ③御所野縄文遺跡（一戸町：世界遺産） | ④石割桜（盛岡市：国天然記念物） |
| ⑤春の岩手山と水田の様子（盛岡市） | ⑥大槌町文化交流センター[愛称：おしゃっち]
（大槌町：第22回木材活用コンクール最優秀賞） |
| ⑦早池峰神楽（花巻市：ユネスコ無形文化遺産） | ⑧県民参加の森づくりの様子（盛岡市） |
| ⑨橋野鉄鉱山高炉跡（釜石市：世界遺産） | ⑩中尊寺金色堂新覆堂（平泉町：世界遺産） |
| ⑪めがね橋
（遠野市：「銀河鉄道の夜」のモチーフ） | ⑫奇跡の一本松
（陸前高田市：高田松原津波復興祈念公園） |

第1章 開催概要

1. 開催意義	1
2. 開催理念	2
3. 大会テーマ	4
4. シンボルマーク	4
5. 大会ポスター原画	4
6. 大会テーマソング	5
7. 開催日	5
8. 主催	5
9. 開催規模	5
10. 新型コロナウイルス感染症対策	6
11. 開催会場	6

第2章 式典行事計画

1. 基本的な考え方	9
2. 式典演出計画	9
3. 式典運営計画	10
4. 式典進行計画	11
5. 音響・映像システム計画	16
6. 式典演出準備スケジュール	17

第3章 植樹行事計画

1. 基本的な考え方	18
2. お手植え計画	18
3. お手播き計画	22
4. 代表者記念植樹計画	24
5. 招待者記念植樹計画	25
6. 植樹要領	26
7. 植樹会場整備計画	28

第4章 会場整備計画

1. 基本的な考え方	30
2. 施設配置計画	30
3. 主要施設計画	32
4. 案内・誘導計画	36
5. 飾花計画	37
6. 電気・給排水・通信設備計画	39

第5章 運営計画

1. 基本的な考え方	40
2. 招待計画	40
3. 招待者行動計画	42
4. 受付計画	44
5. 特別接伴計画	46
6. 作品御覧計画	46
7. 御懇談計画	46
8. 会場内動線計画	47
9. おもてなし計画	48
10. サテライト会場計画	50
11. 昼食計画	51
12. 湯茶接待計画	51
13. 医療・衛生計画	52
14. 消防・防災・警備計画	53
15. 実施本部計画	56
16. 研修・リハーサル計画	57
17. 雨天時・強風時対応計画	58

第6章 宿泊・輸送計画

1. 基本的な考え方	59
2. 宿泊計画	60
3. 輸送計画	61
4. 運行管理体制・緊急時対応	62
5. 道路交通対策	63

第7章 荒天時式典計画

1. 基本的な考え方	64
2. 荒天時会場	64
3. 開催規模	64
4. 荒天時運営計画	65

第8章 関連事業計画

1. 基本的な考え方	70
2. 関連事業の内容	70

第9章 広報・協賛計画

1. 基本的な考え方	74
2. 広報計画	74
3. 協賛計画	75

1. 開催意義

岩手県では、県土の保全、水源の涵養^{かんよう}、木材等の生産など多くの恩恵を森林から受けており、先人が森林との密接なかかわり合いの中で森林を適切に保全・造成してきた長い歴史があります。県土の約8割を占める本県の森林は、県の木である南部アカマツをはじめとした針葉樹のほか、ナラ等の広葉樹といった多様な樹種で構成されているのが大きな特徴です。

現在、その森林は本格的な利用期に入り、県内で木材の需要量が増加するなど、森林・林業をめぐる情勢は大きな転換期を迎え、森林資源の循環利用を進め、適切な森林整備を通じて、地球温暖化の防止及び循環型社会の形成に寄与することが重要となっています。

また、県では、森林の有する公益的機能の維持増進を図り、良好な森林環境を次世代に引き継いでいくため、平成18年度に「いわての森林づくり県民税」を創設し、県民の理解と協力の下に、森林環境保全に係る施策を展開してきました。

さらに、平成29年6月には、林業・木材産業団体による「岩手県森林再生機構」が設立され、民間主導による再造林支援を始めるなど、関係機関が一丸となって、森林・林業・木材産業の振興に取り組んでいるところです。

こうした中、令和5年に、第73回全国植樹祭が本県で開催されます。

本県における全国植樹祭の開催は、昭和49年以来49年ぶり、2回目の開催であり、本県の豊かな森林環境を次の世代に引き継ぐ契機となるとともに、森林の公益的機能に対する県民理解の促進や林業の持続的で健全な発展を図る機運の醸成につながるものです。

また、平成23年3月の東日本大震災津波で大きな被害を受けた本県にとって、全国植樹祭の開催は、国内外からの支援に対する感謝の気持ちとともに、震災から復興する姿を伝える絶好の機会になるものであり、本県ならではの特色ある有意義な大会にしていきます。



【いわての森林づくり県民税を活用した
県民参加の森づくり活動の取組】



【黄葉のカラマツ林】



【いわて森林づくり県民税事業による間伐施行地】

岩手県における全国植樹祭の開催状況

昭和49年5月19日、昭和天皇・皇后両陛下の御臨席を賜り、岩手郡松尾村（現八幡平市）の岩手県民の森において、第25回全国植樹祭を「自然と産業が調和する豊かな緑の創造」をテーマとして開催しました。

この全国植樹祭では、両陛下は南部アカマツをお手植えになるとともに、県内外からの1万6千人の招待者により約8ヘクタールの広大な原野に約2万4千本の南部アカマツ、オオヤマザクラほか4種類の広葉樹を植栽しました。

また、お手播き行事は、全国植樹祭の翌日に開催され、江刺市（現奥州市）の林木育種場（現県立緑化センター）を会場に、天皇陛下が南部アカマツ、皇后陛下が南部キリの種子をお手播きされました。



【式典会場（岩手県民の森：旧松尾村）】



【天皇陛下のおことば】



【天皇陛下お手播き】
（南部アカマツ）



【皇后陛下お手播き】
（南部キリ）

【昭和49年（1974年）開催された第25回大会の様様】

2. 開催理念

第73回全国植樹祭開催理念

「開催理念」は、前述の「開催意義」と岩手県の森林・林業の現状や国際的な目標であるSDGs（持続可能な開発目標）の趣旨などを踏まえ、林業の持続的で健全な発展や森林の多面的機能に対する理解の醸成を図るとともに、東日本大震災津波からの復興の姿を国内外へ発信しようとするものです。

この全国植樹祭を通じて、森との繋がりを再認識するとともに、豊かな森林を次の世代に引き継ぐ契機とします。



【南部アカマツ】

- (1) 県民総参加による森林づくりと、森林資源の循環利用を推進します。
- (2) 森林の恩恵を県内外にアピールし、健全で豊かな森林を次の世代へ引き継いでいきます。
- (3) 世代を越え県を越え全国の皆様が参加できる全国植樹祭にします。
- (4) 感謝の気持ちを込めて東日本大震災津波からの復興の姿を国内外へ発信します。

【岩手県の森林・林業の現状など】

本州北部に位置する岩手県は、本州一の森林面積を有し、スギ、アカマツ、カラマツ、広葉樹がバランスよく生育し、全国有数の森林県となっています。秋田県との県境には奥羽山脈が南北に走り、これと平行して東部には北上高地が広がり、この二つの山系の間を北上川が南流し、その流域の肥沃な平野は広大な稲作地帯となっています。沿岸部は約700kmに及ぶ海岸線を有し、三海流が複雑に交錯しており、森の養分が川を通って海に注ぐことで、良好な漁場を形成し、古くから世界三大漁場の一つ「三陸漁場」として知られています。森林からの清らかな流れは、生活用水や田畑を潤す農業用水に活用され、豊かな漁場を育むとともに、ものづくり産業を支える工業用水にも広く利用されるなど、県民生活の向上や産業の振興に寄与してきました。

また、県の木に指定されている南部アカマツは、幹が通直で、年輪やキメが細かく、材色が優美で、全国の神社・仏閣等で広く利用されるとともに、平泉の文化遺産の構成資産である毛越寺や日本百景の一つに数えられる猊鼻溪などでは、美しい景観を構成しています。明治日本の産業革命遺産である橋野鉄鉱山の高炉燃料として利用されていた木炭は、今でも日本一の生産量を誇り、全国各地に移出され、現在は、アウトドア志向の中、レジャー用の燃料としても好評を博しています。県北地域で盛んに生産されている生漆は、国内生産量の7割を占め、国宝や重要文化財の修復や浄法寺塗をはじめとする全国各地の漆器産地で利用されており、我が国の伝統文化を支えています。このほか、家庭用燃料として評価が高まってきた薪を供給したり、山菜・きのこなどの恵みをもたらします。



【岩手木炭】



【しいたけ】

さらに、ブナやミズナラに代表される落葉広葉樹（冷温帯林）が四季折々の彩り豊かな景観を創り出し、県民の暮らしに潤いと安らぎを与えると同時に、観光産業や健康、教育の分野で森林空間が利用され、森林サービス産業として位置づける動きが出てきています。本県の森林と私たちの暮らしを振り返ると、恵まれた森林環境との関わり合いを通じて、衣食住を満たし、集落を守り、文化を築き、薪やバイオマスを利用した新しい産業が住民生活の安全・安心に役立つなど、自然と調和した生活が引き継がれてきました。

現在、戦後造成されてきた人工林資源が本格的な利用期を迎えるとともに、県内の集成材工場などの木材加工施設や製紙工場、更には木質バイオマス発電施設等の稼働により木材需要が増加しているため、森林利用が進んでいます。

このため、県、市町村、林業関係団体及び森林所有者等がより一層連携し、「植える、育てる、使う、植える」という森林資源の循環利用を進め、持続可能な林業の実現に向けて取り組む必要があります。

このような取組の推進は、地球温暖化の防止など森林の公益的機能の県民理解を促進し、国際目標であるSDGs（持続可能な開発目標）※の目標達成につながるものです。

一方で、平成23年3月に発生した「東日本大震災津波」から10年が経過した現在、交流を力に、多様な主体の連携と県民の参画により、被災者一人ひとりの復興を成し遂げ、より良い復興につなげられるよう取組を進めるとともに、復興の姿を全国へ発信する必要があります。

※ 平成27年（2015年）9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げた17の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画。目標の一つである「陸の豊かさを守ろう」には、森林の持続可能な管理等が掲げられている。

3. 大会テーマ

全国から応募があった1,275点の作品の中から、選定しました。

緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から

作者： ふじた わかば 藤田 若葉 さん （岩手県北上市 北上市立江釣子中学校2年 ※選定時）

[選定理由]

宮沢賢治が理想郷として表した「イーハトーブ」が自然と人との調和する岩手県らしさを象徴しています。また、「緑をつなごう」、「輝く」が豊かな森林の継承、震災復興からの明るい未来を表し、全体として岩手の魅力、全国植樹祭の開催理念が見事に表現された作品となっています。

4. シンボルマーク

全国から応募があった223点の作品の中から、選定しました。

作者： すぎやま いちろう 杉山 市郎 さん （千葉県在住）



[選定理由]

森をイメージした緑のキャラクターが笑顔でわんこきょうだいを包む様子は、親しみやすさと同時に、人と自然との共生を象徴し、大会テーマの「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」にも通じています。

また、輪郭が県名の由来である三ツ石神社の石や岩手県の形にも似ているなど、岩手らしさも表現された、本県の大会にふさわしい作品となっています。

5. 大会ポスター原画

岩手県内の小中学校及び高等学校などの児童・生徒から応募があった445点の作品の中から、選定しました。



タイトル： 「森に虹をかけよう！」

作者： たかはし らんらん 高橋 蘭々 さん
（岩手県北上市 北上市立黒沢尻西小学校3年 ※選定時）

[選定理由]

森林に囲まれた輝く虹は、大会テーマ「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」に重なる表現であり、東日本大震災津波からの復興、そして、岩手県民全体の明るい未来へと導く、希望の架け橋をイメージさせる作品となっています。

6. 大会テーマソング

楽曲名：「風に抱かれて」

作詞・作曲：佐藤 千亜妃

(岩手県出身のミュージシャン)

編曲：SUNNY



7. 開催日

令和5年(2023年)6月4日(日)

8. 主催

公益社団法人国土緑化推進機構

岩手県

9. 開催規模

県内外から参加する招待者、実施本部員・協力員等を含め、4,200人程度の規模で開催します。ただし、荒天時は縮小します。

区 分	参加予定者数	内 訳
県外招待者	650 人	国関係者、被表彰者、他県招待者 等
県内招待者	1,550 人	県関係者、市町村関係者、学校関係者、森林・林業・緑化関係団体、公募招待者、県実行委員会 等
実施本部員・協力員等	2,000 人	実施本部員、協力員、出演者 等
合 計	4,200 人	

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催規模を見直す場合があります。

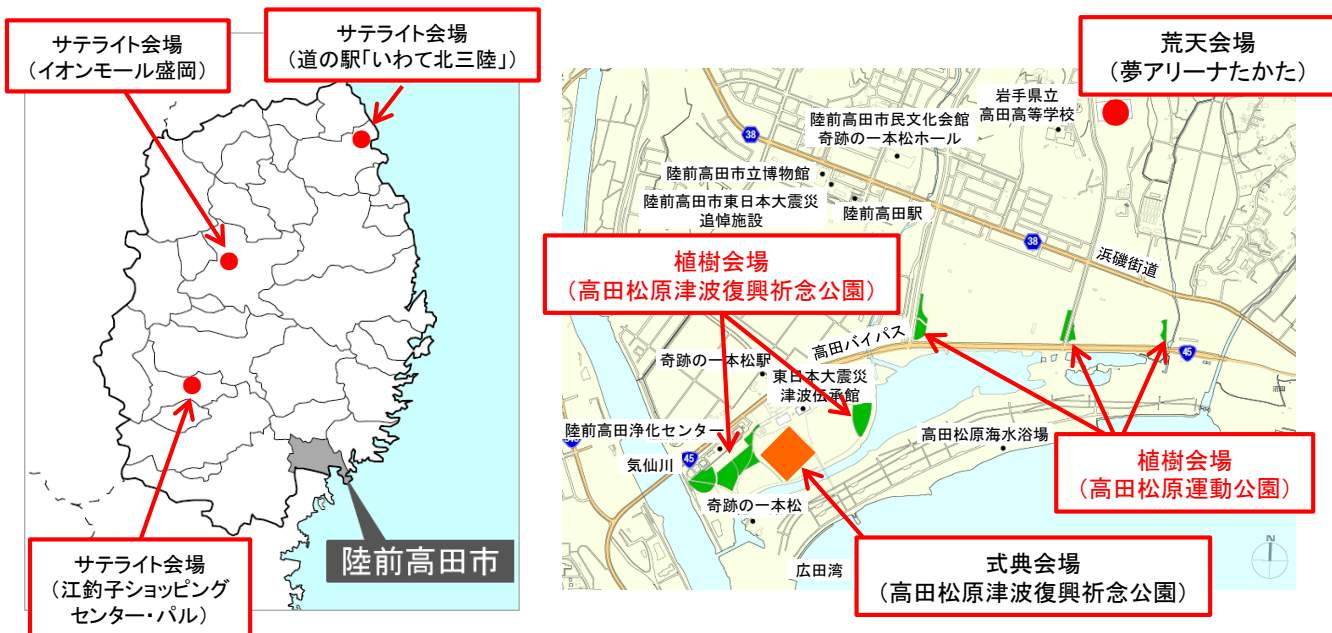
10. 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染状況を見据え、安全かつ安心して参加いただける大会とするため、感染症対策に万全を期した大会となるよう、主に以下の点に留意するとともに、コロナウイルス状況下であっても創意工夫を凝らした大会となるよう準備を進めます。

- (1) 3密を避け、人と人との距離を十分に確保します。
- (2) 参加者のマスク着用、各所にアルコール消毒液を設置し手指消毒の実施を徹底します。
- (3) 植樹行事では、人と人との直接的な接触を避けるよう、用具の引渡し方法を工夫をし植樹を行います。
- (4) 飲食を伴うレセプションは実施しないこととします。また、おもてなし広場での飲食コーナーを設置しないこととします。

11. 開催会場

■ 開催会場位置図



(1) 式典会場

式典会場では、式典行事、天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き行事を実施します。また、各種の展示PR等を行うおもてなし広場を設置し、招待者を歓迎します。

■ 高田松原津波復興祈念公園（陸前高田市気仙町）

式典会場となる「高田松原津波復興祈念公園」は、7万本の松のうち「奇跡の一本松」が残ったこの場所で、2011年3月の東日本大震災津波の犠牲者への追悼と鎮魂や、震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志を発信するため、設置されました。

当会場から、林業の持続的で健全な発展とともに、震災の教訓とそこからの復興の姿を高田松原の再生などと重ね合わせて、力強く取り組んでいる岩手の姿を全国に発信し、感謝の気持ちを伝えます。



(2) 植樹会場

県内外の招待者が記念植樹を行う植樹会場を、陸前高田市内の2か所に設置します。

■ 植樹会場一覧

会場名	所在地
高田松原津波復興祈念公園	陸前高田市気仙町
高田松原運動公園	陸前高田市高田町

(3) サテライト会場

より多くの県民の皆様が開催理念を共有していただき、全国植樹祭を体感できるように、式典会場以外の県内3か所にサテライト会場を設置します。

サテライト会場では、式典の模様を中継するほか、各種の展示PR等を行います。

■ サテライト会場

会場名	所在地
イオンモール盛岡	盛岡市
江釣子ショッピングセンター・パル	北上市
道の駅「いわて北三陸」 ※令和5年4月利用開始予定	久慈市



[イオンモール盛岡]



[江釣子ショッピングセンター・パル]



[道の駅「いわて北三陸」(イメージ図)]

(4) 県内各地

より多くの県民の皆様が開催理念を広めるとともに、森林づくりや木材利用の必要性について広く周知するため、県内各地での緑化活動や県内市町村イベントにおける事前PRなどの関連事業を実施します。

1. 基本的な考え方

式典行事は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 参加者が開催理念を共有するとともに、心に残る全国植樹祭とします。
- (2) 式典は、簡素化を図りながらも、厳粛で品格があるものとします。
- (3) 若い世代、高齢者、障がい者等、できる限り多くの皆様や、大会に賛同いただいた企業、団体などが参加できるよう配慮します。
- (4) 式典の演出は、人と人との距離を十分に確保します。

2. 式典演出計画

式典の構成は、「プロローグ」「記念式典」「エピローグ」の3部構成とします。

区 分	演出テーマ	内容
プロローグ	～感謝～ “ありがとう いわてからの感謝状”	東日本大震災津波からの復興支援に対する感謝と、全国から参加した皆様への歓迎の気持ちを、岩手県をあげて情緒豊かに表現します。
記念式典	～誓い～ “緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から” (大会テーマ)	自然の「恵」と「厳しさ」を知る岩手だからこそ、伝えることのできる森林づくりへの想いを、次世代へつないでいく決意を力強く発信します。
エピローグ	～希望～ “みどり輝く未来へ向けて”	全国から参加の皆様と岩手県民が、ともに緑に託す「希望」を未来へつなぐ、熱い機運をつくりあげていくグランドフィナーレです。



[参考: 式典の様子(第70回全国植樹祭あいち大会)]



[参考: 式典の様子(第72回全国植樹祭しが大会)]

3. 式典運営計画

式典運営は、次の事項を基本とし、岩手県らしさを感じていただける運営を行います。

- (1) 式典の運営は、参加者の安全性や快適性に十分配慮し、緑の少年団やボランティア等の協力を得ながら行います。
- (2) 司会者、アシスタント、式典音楽隊の出演者等については、地元団体をはじめ県内の関係団体などの協力と参加を得て編成します。
- (3) 危機管理については、責任者を明確にし、迅速な初期対応ができるようマニュアル等を作成し、研修を行います。



[参考:式典の様子(第71回全国植樹祭しまね大会)]



[参考:式典の様子(第72回全国植樹祭しが大会)]

4. 式典進行計画

(1) 式典スケジュール

所要時間	項目	進行内容
開 場	招待者入場	・ 来場者歓迎、岩手県の紹介 ・ インフォメーション（式典スケジュールの案内等）
プロローグ / 13:00~14:00		
60分 程度	歓迎と感謝の言葉	・ 陸前高田市長
	プロローグアトラクション	～感謝～ “ありがとう いわてからの感謝状”
	感謝状の贈呈	「大会テーマ」、「シンボルマーク」、「大会ポスター原画」感謝状贈呈
	記念切手の贈呈	・ 日本郵便株式会社 代表取締役社長
	記念式典の御案内	
記念式典【天皇皇后両陛下御臨席】 / 14:00~15:00		
60分 程度	天皇皇后両陛下御到着	
	黙とう	・ 東日本大震災津波犠牲者への黙とう
	開会のことば	・ 国土緑化推進機構副理事長
	三旗掲揚・国歌独唱	
	主催者あいさつ	・ 大会会長（衆議院議長） ・ 岩手県知事
	天皇陛下のおことば	
	表彰	・ 緑化功労者等代表などへの表彰
	苗木の贈呈	・ 緑の少年団から、農林水産大臣、国土交通大臣等に苗木を贈呈
	天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き	
	代表者記念植樹	・ 県内外特別招待者による植樹
	大会テーマの表現	～誓い～ “緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から”
	大会宣言	・ 国土緑化推進機構理事長、いわて林業アカデミー修了生
	リレーセレモニー	・ 次期開催県への木製地球儀の引継ぎ
	閉会のことば	・ 岩手県議会議長
	天皇皇后両陛下御出発	
エピローグ / 15:00~15:25		
25分 程度	エピローグアトラクション	～希望～ “みどり輝く未来へ向けて”

(2) 登壇者一覧

No.	登壇者名	出演シーン等
1	大会会長（衆議院議長）	①天皇皇后両陛下 御到着・御徒歩・御着席 ②主催者あいさつ ③表彰 （国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール） ④天皇皇后両陛下 御退席・御徒歩・御出発
2	（公社）国土緑化推進機構理事長	①天皇皇后両陛下 御到着・御徒歩・御着席 ②天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き ③大会宣言 ④天皇皇后両陛下 御退席・御徒歩・御出発
3	岩手県知事	①感謝状の贈呈 ②記念切手の贈呈 ③天皇皇后両陛下 御到着・御徒歩・御着席 ④主催者あいさつ ⑤表彰（岩手県緑化関係表彰） ⑥天皇皇后両陛下 お手植え・お手播き ⑦リレーセレモニー ⑧天皇皇后両陛下 御退席・御徒歩・御出発
4	農林水産大臣	①表彰（緑化功労者） ②苗木の贈呈
5	文部科学大臣	○表彰（全日本学校関係緑化コンクール）
6	国土交通大臣	○苗木の贈呈
7	環境大臣	○苗木の贈呈
8	復興大臣	○苗木の贈呈
9	（公社）国土緑化推進機構副理事長	○開会のことば
10	岡山県知事	○リレーセレモニー・次期開催県知事あいさつ
11	岩手県議会議長	○閉会のことば
12	陸前高田市長	○歓迎と感謝のことば
13	日本郵便株式会社 代表取締役社長	○記念切手の贈呈
14	受賞者 ・大会テーマ作者 ・シンボルマーク作者 ・大会ポスター原画作者	○感謝状の贈呈
15	受賞者 ・国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール入賞者代表 ・緑化功労者代表 ・全日本学校関係緑化コンクール入賞校代表 ・岩手県緑化関係受賞者代表	○表彰

(3) 出演者一覧

項目		人数	出演者／団体名
総合司会		1名	・アナウンサー
式典進行役		2名	・岩手県立盛岡第二高等学校
手話通訳・要約筆記		8名	・岩手県 ・岩手県立視聴覚障がい者情報センター
式典アシスタント		20名	・岩手県立高田高等学校
式典音楽隊（吹奏楽）		100名	・岩手県立水沢高等学校 ・岩手県立一関第二高等学校 ・岩手県立高田高等学校 ・岩手県立大船渡高等学校 ・学校法人一関学院 一関学院高等学校
式典音楽隊（合唱）		40名	・岩手県立不来方高等学校 ・岩手県立釜石高等学校 ・岩手県立宮古高等学校
式典 出演者	介添え 三旗掲揚 苗木の贈呈 大会宣言	140名	・緑の少年団 ・日本ボーイスカウト岩手連盟 ・ガールスカウト岩手県連盟 ・いわて林業アカデミー修了生
	プロローグ アトラクション 大会テーマの表現 エピローグ アトラクション	190名	○ストーリーテラー 村上弘明 ○語り手 桑島法子 ○伝統芸能 ・太鼓 岩手県立大船渡東高等学校 ・鹿踊り 岩手県立花巻農業高等学校 ○感謝のメッセージリレー発表 ・陸前高田市商工会関係者 ・気仙小緑の少年団 ○TSUNAMI ヴァイオリン演奏 ・ラトゥール・カルテット ○復興ソングの合唱 ・岩手県立不来方高等学校 ・岩手県立釜石高等学校 ・岩手県立宮古高等学校 ○国歌独唱 ソプラノ歌手 ○ダンス ・Lips Dance School ・県内緑の少年団 ○メッセージ発信者 ○活動発表 県内林業・木材産業関係者 ○大会テーマソング歌唱 佐藤千亜妃
合計		500名 程度	

(4) 式典演出の概要

アトラクションは、宮沢賢治の童話「けんじゅうこうえんりん 度十公園林」の物語を中心に、式典全体を「ストーリーテラー」の進行でナビゲートしていく中、「語り手」による物語の朗読により、アトラクションと物語の世界観をつなげていく演出とします。

けんじゅうこうえんりん
＜度十公園林のあらすじ＞

主人公の度十が、家族の力を借りながら野原に杉苗を植え、その木が生長し林となり、子供たちの遊び場となった。

その後、度十は亡くなってしまいが、長い年月が過ぎ、街並みが変わっても度十の林は子供たちの憩いの場としてあり続けた。

ある日、アメリカ帰りの村出身の博士が故郷へ帰り、自分が子供の頃に遊んだ度十の林を訪れたところ、度十の林が変わらず残っていることに感動し、「度十公園林」と名付け、保存されることとなった。

ストーリーテラー



村上 弘明 さん

語り手



桑島 法子 さん

プロローグアトラクション

感謝

ありがとう いわてからの感謝状

東日本大震災津波からの復興支援に対する感謝と、全国から参加した皆様への歓迎の気持ちを、岩手県をあげて情緒豊かに表現します。

シーン構成イメージ

SCENE1 イーハトーブいわて

宮沢賢治の童話から「けんじゅうこうえんりん 度十公園林」を取り上げ、ストーリーテラーによる語りや朗読、映像により、招待者を「イーハトーブいわて」の世界へと誘います。

SCENE2 いわて復興の歩み

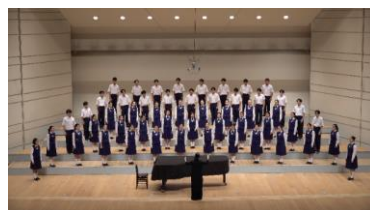
未来に向けて歩みを止めない岩手の力強さを太鼓の演奏で表現し、東日本大震災津波からの復興の歩みを映像で紹介します。



SCENE3 いわてからの“感謝状”

TSUNAMI ヴァイオリン[※]の演奏にのせて、国内外からいただいた復興支援に対する感謝と、震災の教訓を世代を超えて引き継いでいくことを誓う、「感謝のメッセージリレー」を披露します。

また、岩手県内の高校生で結成した合唱団が、感謝の気持ちを込めて歌います。



※ TSUNAMI ヴァイオリンは、東日本大震災の津波から生じた流木や倒壊家屋の材木から作られました。また、ヴァイオリンの表板と裏板の響きをつなぐ部品（魂柱）には、「奇跡の一本松」が使われています。

記念式典

天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き、緑化功労者等の各種表彰、苗木の贈呈、大会宣言、次期開催県へのリレーセレモニー等を実施。



お手植え



お手播き



各種表彰



苗木の贈呈



リレーセレモニー

大会テーマの表現

誓い

緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から

けんじゅうこうえんりん

「度十公園林」の物語に合わせた朗読やダンスを披露するとともに、豊かな森林を未来へ継承するメッセージを発信することで大会テーマを表現します。

シーン構成イメージ

SCENE 1

いわての多様で豊かな森林と人のつながりを表現

けんじゅうこうえんりん

「度十公園林」の一節とともに、度十が植えた木が生長し、やがて子供たちの憩いの場として、身近な存在となる様子をダンスで表現します。

SCENE 2

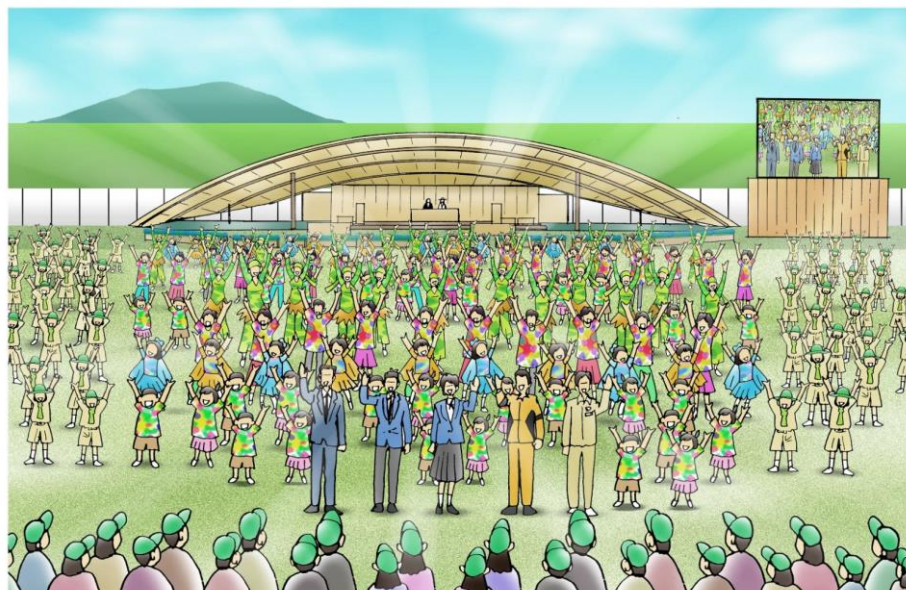
いわての森林を未来に継承する決意のメッセージを発信

林業・木材産業の関係者や学生が、いわての豊かな森林を未来に継承する決意をメッセージとして発信します。

SCENE 3

未来へ緑をつなぐ 輝くいわたの森から

いわての豊かな森林を創作ダンスで表現し、ストーリーテラーが未来へ、次の世代へ繋ぐことを誓います。



エピローグアトラクション

希望

みどり輝く未来へ向けて

緑に託す「希望」を未来へつなぐ熱い機運を、イーハトーブいわてからつくりあげていく姿を表現します。

シーン構成イメージ

SCENE1 岩手の伝統芸能の披露

岩手県が誇る、躍動感あふれる伝統芸能「ししおど鹿踊り」を披露します。



SCENE2 いわての森林・林業の未来に向けた活動発表

岩手の森林・林業のみどり輝く未来を創り上げていくために活動する、団体の発表を行います。



SCENE3 出演者全員でのフィナーレ

全ての出演者が登場するとともに、佐藤千亜妃さんが大会テーマソングを歌唱し、感動のフィナーレを迎えます。

大会テーマソング：「風に抱かれて」

作詞・作曲：佐藤千亜妃



佐藤 千亜妃 さん

5. 音響・映像システム計画

(1) 音響

演出内容にふさわしい音響効果が得られるよう、適切な場所にスピーカーを設置します。集音マイクは風対策を施し、質の高い音を再現します。

(2) 映像

参加者がどこにいても式典の状況を視認できるよう、大型映像装置を配置します。

大型映像を使って、式典の構成や演出を効果的に表現します。

特別招待者席(上手・下手)にはモニターを設置し、大型映像装置と同じ映像を放映します。



[参考：スピーカー（第72回全国植樹祭しが大会）] [参考：大型映像装置（第72回全国植樹祭しが大会）]

6. 式典演出準備スケジュール

年		令和4年(2022年)										令和5年(2023年)					
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
全体						開催日決定			実施本部設置			実施計画策定					
演出関係	構成・演出	構成・演出内容の検討・決定									式典台本の作成・修正						
	式典演技	演技内容の検討・決定									演技内容の具体化						
	式典音楽	楽曲の検討・決定							楽譜の作成・調達								
	映像ソフト	映像構成の検討 映像素材の収集									映像制作						
	音響・映像システム	機器システム計画									システム設計・調整						
出演者関係	式典アシスタント	アシスタントの検討・決定									アシスタントの研修・練習						
	介添え	介添者の検討・決定									介添者の研修・練習						
	式典音楽隊出演者	出演団体の検討・決定									練習						
資料関係	登壇者行動表	登壇者行動表の検討									登壇者行動表の作成・調整						
	出演者行動表	出演者行動表の検討									出演者行動表の作成・調整						
	リハーサル計画	各リハーサル計画の検討							各リハーサル計画の作成・調整								
	運営マニュアル	各マニュアルの検討									各運営マニュアルの作成・調整						
		リハーサル 式典(4月8日)・総合(4月22日)・荒天会場(5月20日)・最終(6月2日)															
		第73回全国植樹祭(6月4日)															

1. 基本的な考え方

植樹行事は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 将来目指すべき、森林の姿をイメージしたうえで、本県の気候風土や立地条件に適した樹種を選定します。
- (2) 県民の皆様との協働による森林づくり活動の拡大につなげていく契機とするため、若い世代等、できる限り多くの県民の皆様に参加していただけるよう配慮します。
- (3) 植樹用の苗木は、県内で採取した種子等により育成した苗木や、スクールステイにより、県内小中学校の児童・生徒や緑の少年団が育てた苗木を使用します。

2. お手植え計画

- (1) 天皇皇后両陛下のお手植えは、本県にゆかりのある樹種のうち、それぞれ3種の植樹とします。
- (2) お手植えされた記念樹は、第73回全国植樹祭の開催を記念し、県土に育む豊かな森林づくりのシンボルとして大切に管理・育成していきます。
- (3) 感染症対策のため、お手植え用具の受け渡し方法を工夫します。



[参考:お手植えの様子(第70回全国植樹祭あいち大会)]

■ 天皇陛下お手植え樹種（3種）

南部アカマツ

岩手県は、アカマツ資源の宝庫であり、県の木として、広く県民に親しまれています。

その材は、通直で目の詰まった明瞭な年輪、独特の色つやと木目の美しさを持つ良質材として、江戸時代から有名です。

昭和49年に開催された第25回全国植樹祭でも天皇皇后両陛下にお手植えされました。



カシワ

寒冷地の気候に強く、気仙地域等海岸部にも群生しており、新芽が出る翌春まで古い葉が落ちないことから、子孫繁栄を象徴する縁起物とされています。

また、「葉（覇）を譲る」家運隆盛を象徴する木として、端午の節句の柏餅の葉でも親しまれています。



タブノキ

常緑広葉樹で、耐潮性、耐風性に優れることから、海岸部に密生しており、本県山田町が太平洋岸における北限の自生地です。

そのタブノキの一部は、東日本大震災津波を受けても生き残り、震災復興を象徴する存在のひとつとなっています。



■ 皇后陛下お手植え樹種（3種）

ベニヤマボウシ

白い花の咲くヤマボウシの名は、花びらのように見える総苞が頭巾をかぶった山法師に似ていることに由来します。

陸前高田市では、紅花の咲くベニヤマボウシの原木が、氷上山（江戸時代末期）で採取されたことから、発祥の地とも言われ、植樹会が開催されるなど市民に親しまれています。



ハナヒョウタンボク

国内では、岩手県と長野県に分布する樹種であり、岩手県では遠野市以北の北上高地に分布しています。

国の絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、希少、貴重な樹種で、その名は二つ付く実がヒョウタンの形に見えることに由来します。



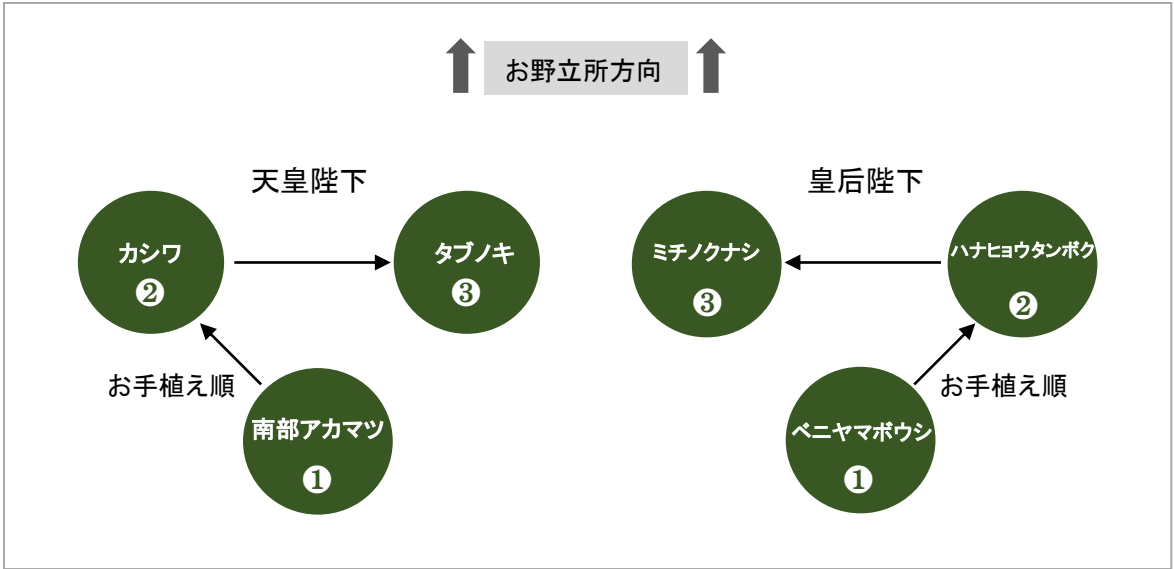
ミチノクナシ（イワテヤマナシ）

国の絶滅危惧ⅠB類に指定される貴重な樹種です。近年の研究で、自生集団と帰化集団の交雑があり、北上山地の集団のみが真の自生集団であることが明らかになりました。

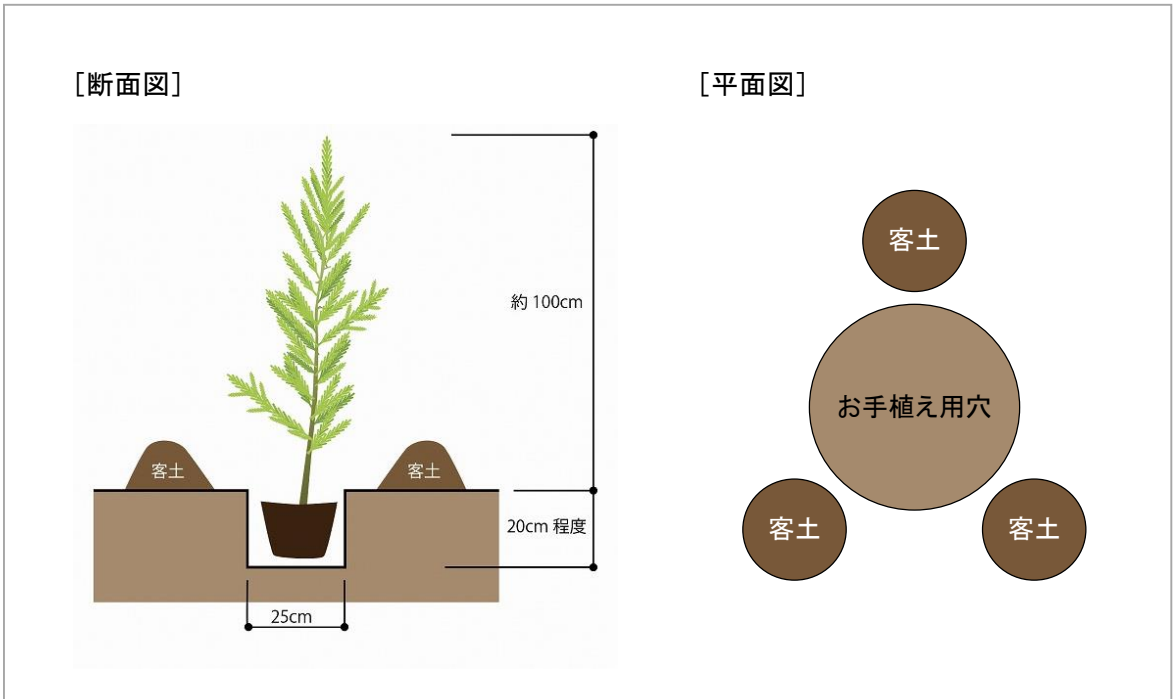
宮沢賢治の童話「やまなし」でも親しまれ、東日本大震災津波の復興支援で沿岸部の学校に苗が提供されました。



■ お手植え樹種配置図



■ お手植え標準図



3. お手播き計画

- (1) 天皇皇后両陛下のお手播きは、本県にゆかりのある樹種のうち、お手播き箱へそれぞれ2種の播種とします。
- (2) お手播きされた種子から養成した苗木は、岩手県が管理・育成し、県内の公共施設等に「記念樹」として配付します。
- (3) 感染症対策のため、お手播き用具の受け渡し方法を工夫します。

■ 天皇陛下お手播き樹種（2種）

オオヤマザクラ

ヤマザクラより、花も葉も大きく、本州中部以北、北海道等寒冷地に分布する北国を代表するサクラのひとつです。

岩手県で前回行われた全国植樹祭において、天皇皇后両陛下にお手植えされた樹木から採取した種子を今回お手播きします。



ケヤキ

樹形の美しさや寿命が長いことから、各地に多くの巨樹巨木がみられます。

木目の美しさから建築材や岩手県の伝統的工芸品の岩谷堂箆笥などに利用される等、岩手県の林業を支える主要な広葉樹のひとつです。



■ 皇后陛下お手播き樹種（2種）

ヤブツバキ

開催地である陸前高田市の花にも選ばれるなど気仙地方を代表する常緑広葉樹で本県宮古市が太平洋岸の北限です。

つややかな濃緑の葉に赤い花が際立つ花木で、椿油は商品として販売されています。



ハマナス

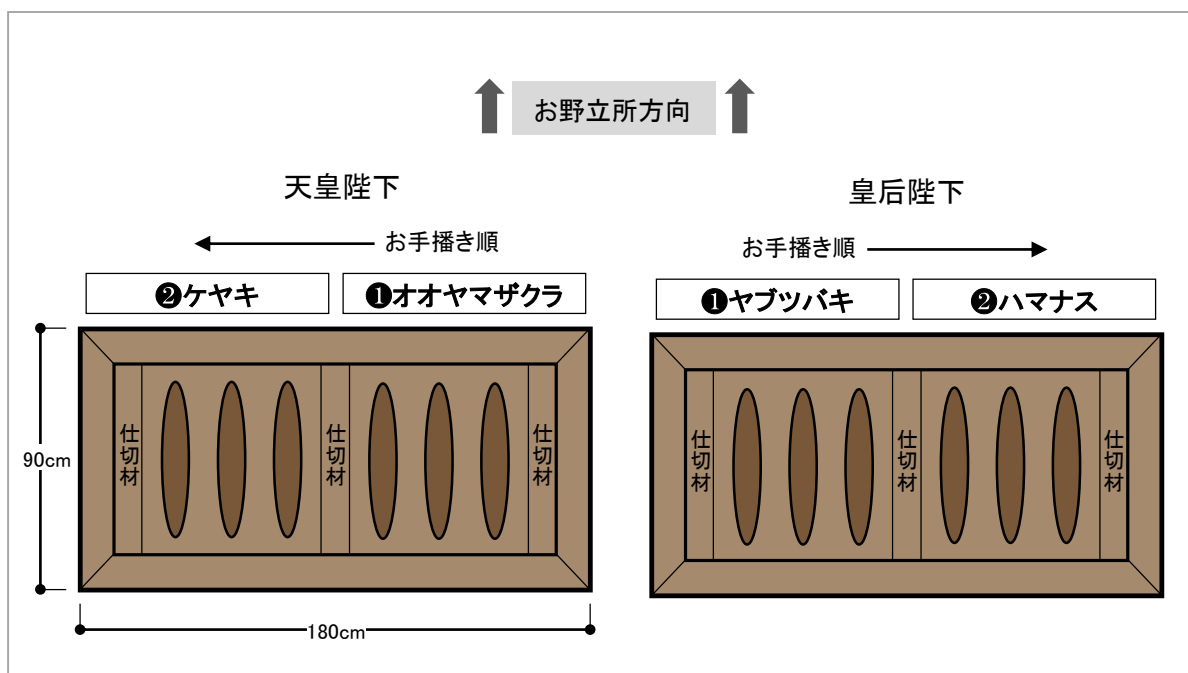
沿岸部の砂地に群落をつくり、香料の原料にもなる大きな花が夏の海岸を彩ります。

また、東日本大震災津波から生き残る力強さは、復興を象徴します。

皇后陛下の「お印」にも選ばれています。



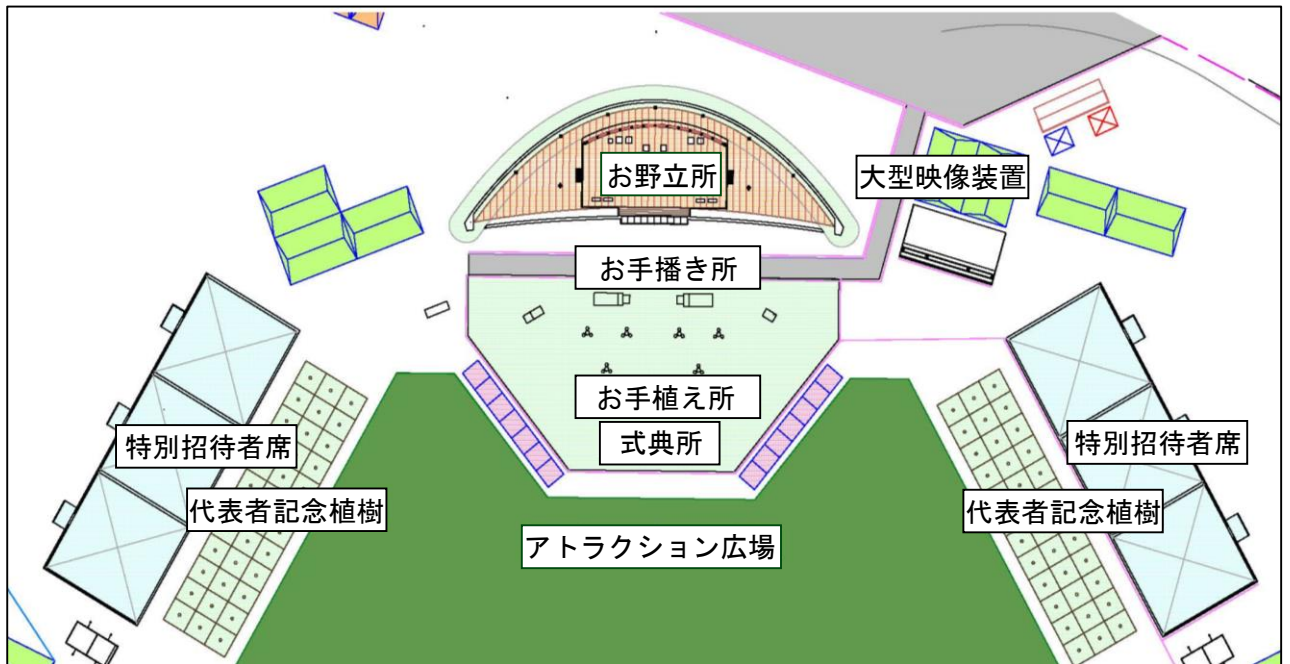
■ お手播き樹種配置図



4. 代表者記念植樹計画

- (1) 特別招待者の代表は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- (2) 場所は、式典会場内で行うものとします。
- (3) 代表者記念植樹の樹種は、天皇皇后両陛下と同じ樹種とします。
- (4) 感染症対策のため、植樹用具の受け渡し方法を工夫します。

■ お手植え所・お手播き所および代表者記念植樹配置図



[参考:代表者記念植樹の様子(第72回全国植樹祭しが大会)]

5. 招待者記念植樹計画

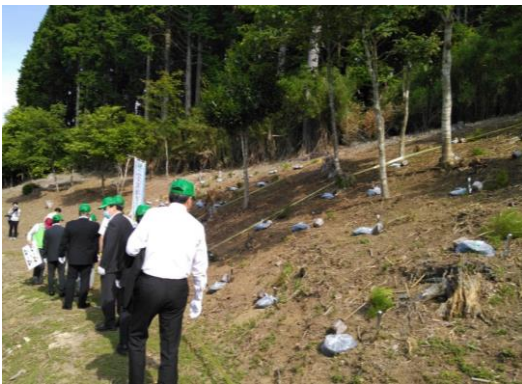
- (1) 招待者記念植樹は、県内外からの招待者が、1人1本以上の記念植樹を大会当日の式典前に行います。
- (2) 岩手県の気候風土や会場特性に適した樹木を植樹します。
- (3) 苗木のスクールステイにより、子供たちが育てた苗木も使用します。

■ 招待者記念植樹樹種

会場名	本数	主な樹種
高田松原津波復興祈念公園	約3,000本	オオバクロモジ、オオヤマザクラ、ドウダンツツジ、ナツハゼ、ヒメアオキ、ヤマザクラ、ヤマツツジ、レンゲツツジ 等 計32種
高田松原運動公園	約300本	エノキ、オオヤマザクラ、ケヤキ、コナラ、タブノキ、ブナ、ベニヤマボウシ、ミズナラ、ヤマザクラ、ヤマモミジ 等 計17種

■ 招待者記念植樹スケジュール

植樹会場	招待者区分	スケジュール
高田松原津波復興祈念公園	県外招待者 県内招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・バスで指定宿泊地・指定集合地から植樹会場へ移動 ・植樹後、徒歩で式典会場の入場ゲートへ移動
高田松原運動公園	県内招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・バスで指定集合地から植樹会場へ移動 ・植樹後、バスで式典会場の入場ゲートへ移動



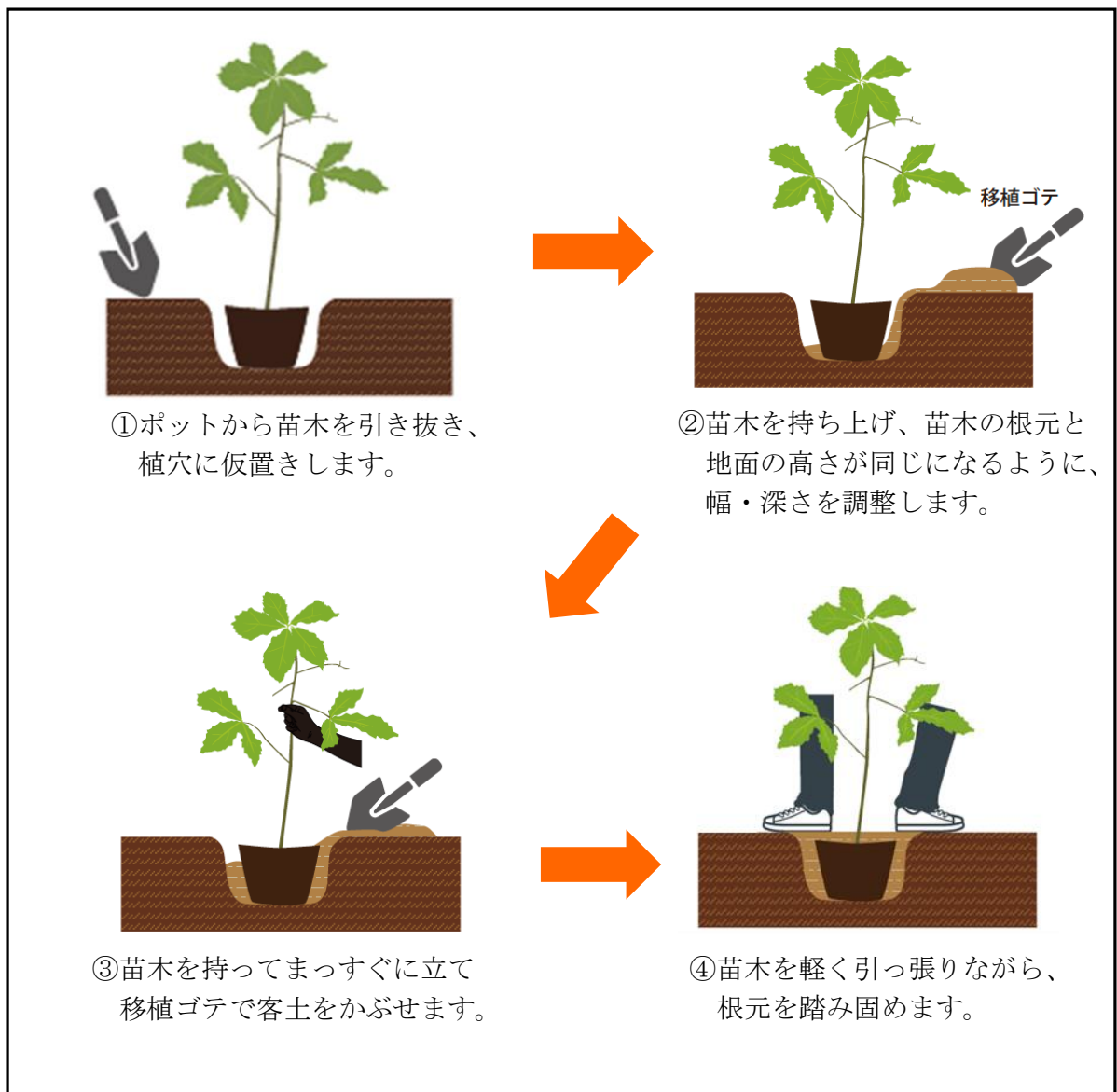
[参考: 招待者記念植樹の様子(第72回全国植樹祭りが大会)]

6. 植樹要領

(1) 苗高2.0m未満

- ポットから苗木を引き抜き、植穴に仮置きします。
- 苗木の根元と地面の高さが同じになるように、幅・深さを調整します。
- 苗木を持ってまっすぐに立て客土をかぶせます。
- 苗木を軽く引っ張りながら、根元を踏み固めます。

<招待者記念植樹樹種>



(2) 苗高2.0m以上

- 苗木は植穴に仮置きしてあります。
- 苗木の根元にスコップで客土をかぶせます。
- かぶせた客土を踏み固めます。

<招待者記念植樹樹種>



①苗木は、植穴に仮置きしてあります。



②苗木の根元にスコップで客土をかぶせます。



③かぶせた客土を踏み固めます。

7. 植樹会場整備計画

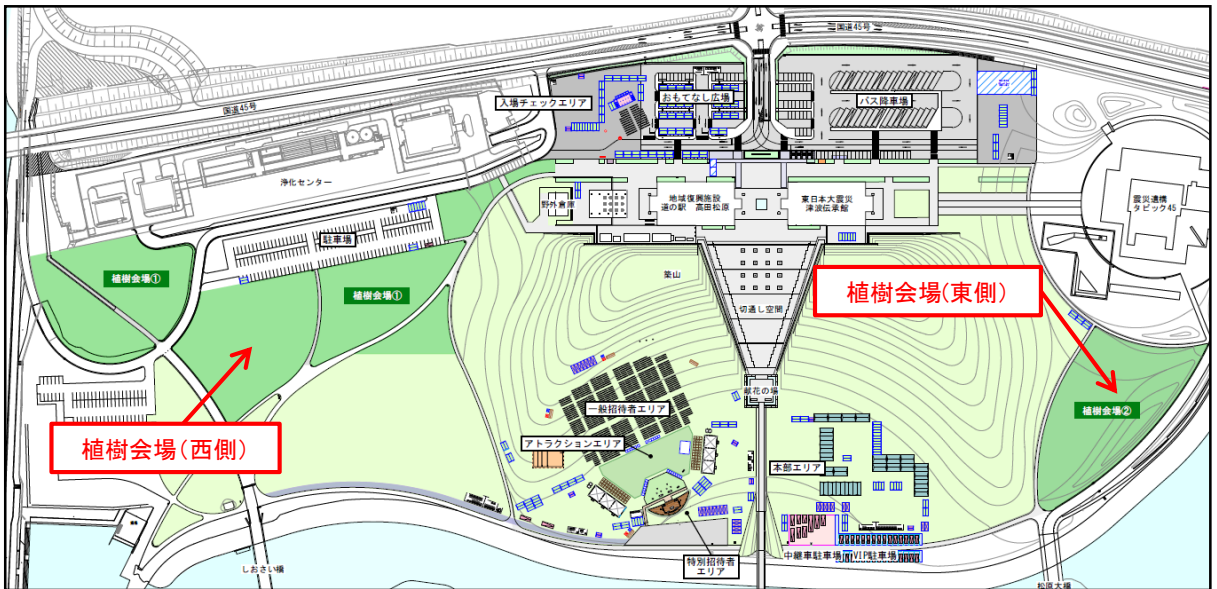
(1) 高田松原津波復興祈念公園

【現 状】式典会場の西側及び東側に位置し、公園整備後の草地となっている。

【整備方針】西側については、高田松原津波復興祈念公園の植栽計画に基づき、落葉・常緑樹林とし、中低木を植栽する。

東側については、同植栽計画に基づき、市民に親しまれた桜を植栽する。

■ 会場平面図



[現況]



[将来イメージ]

(2) 高田松原運動公園

【現 状】運動公園整備後の草地となっている。

【整備方針】祈念公園や震災遺構周りの植栽樹種とも調和のとれたオオヤマザクラやコナラ等を植栽する。

■ 会場平面図



[現況]



[将来イメージ]

1. 基本的な考え方

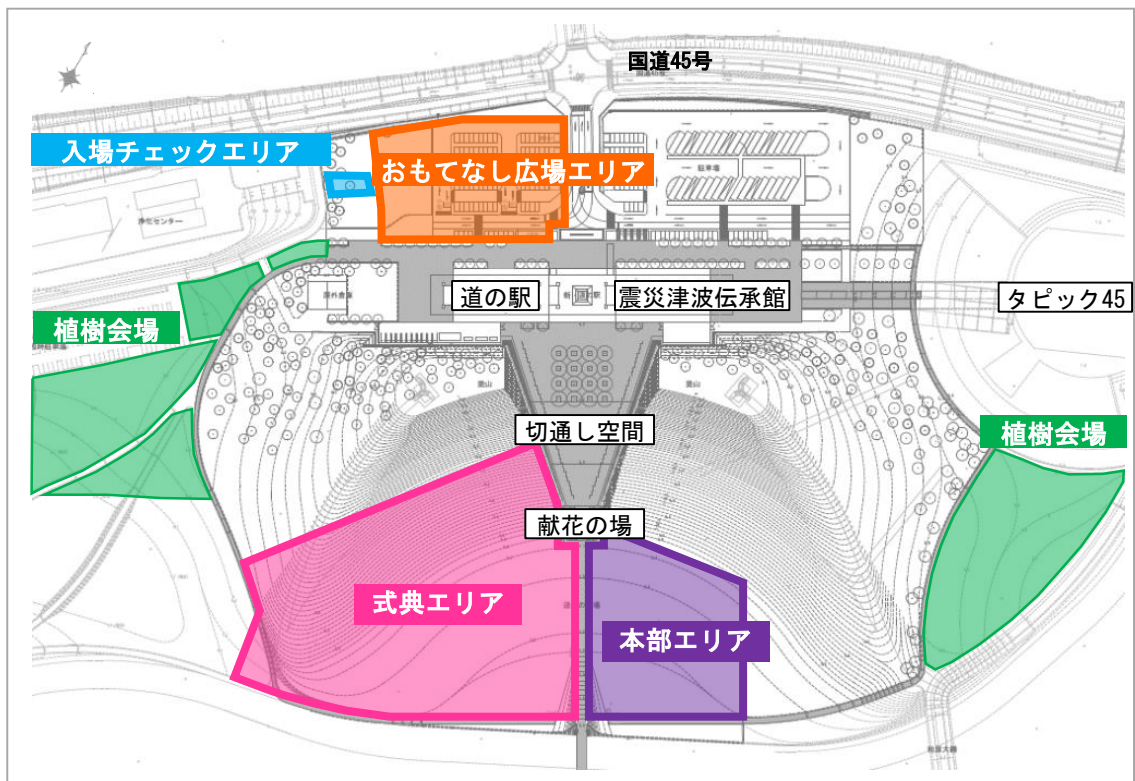
会場整備計画は、次の事項を基本として実施します。

- (1) 自然環境にできる限り負荷を与えないようにするとともに、経費削減を図ります。
- (2) 会場に設置する仮設構造物等には、県産木材をできる限り使用するとともに、再生資源の活用など環境負荷の低減に努めます。
- (3) 会場レイアウトや建築物等は、周辺の景観との調和を図るとともに、安全性や機能性を考慮し、高齢者や障がい者をはじめ、全ての招待者が安心して快適に参加できるよう配慮します。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対策のため、招待者席、出演者控室等は、人と人の距離を十分に確保できるよう計画します。

2. 施設配置計画

東日本大震災津波からの復興の象徴である高田松原津波復興祈念公園施設を活かし、会場は4つにエリア分けをします。

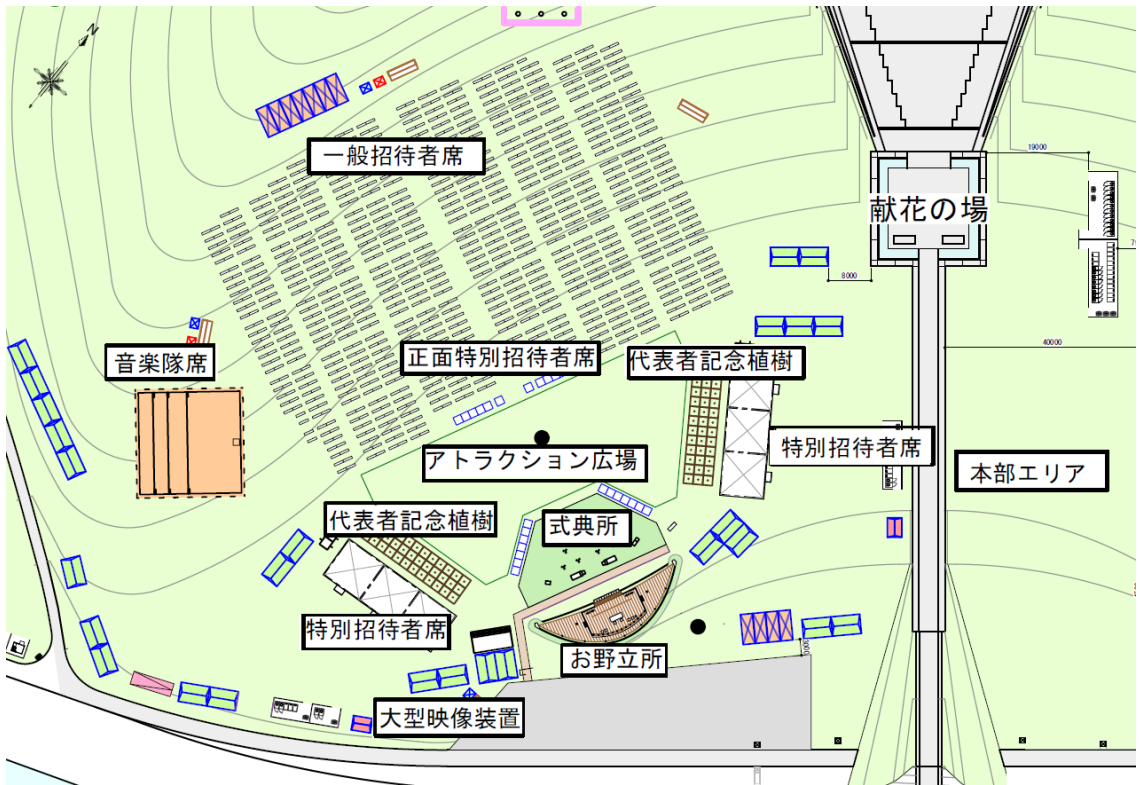
■ 式典会場エリア図



■ 式典会場イメージ



■ 式典会場配置図



3. 主要施設計画

(1) お野立所^{のだてしょ}

東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂の場である高田松原津波復興祈念公園にふさわしく、周辺の風景と調和したデザインとします。

- ・三日月形の屋根は、伸びやかで明るい未来と、木材利用の新たな可能性を表現します。
- ・基壇[※]は、県産木材を使用した柔らかな質感で仕上げ、「あたたかな県民性」を表現します。
- ・海から陸に伸びる屋根のラインは、本県の宝である森・川・海の繋がりと、力強く未来へ向かう岩手県民を表現します。
- ・建築にあたっては、経費の節減に努めるとともに、大会終了後は再利用することを考慮します。

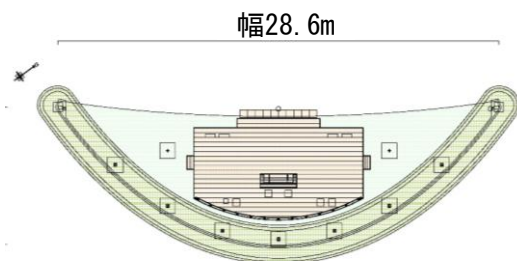
※ 基壇：お野立所の床面

■ お野立所イメージ

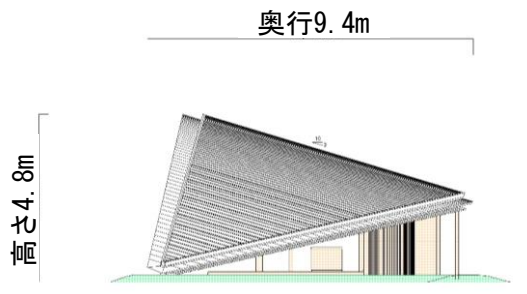


■ お野立所図

[平面図]



[側面図]

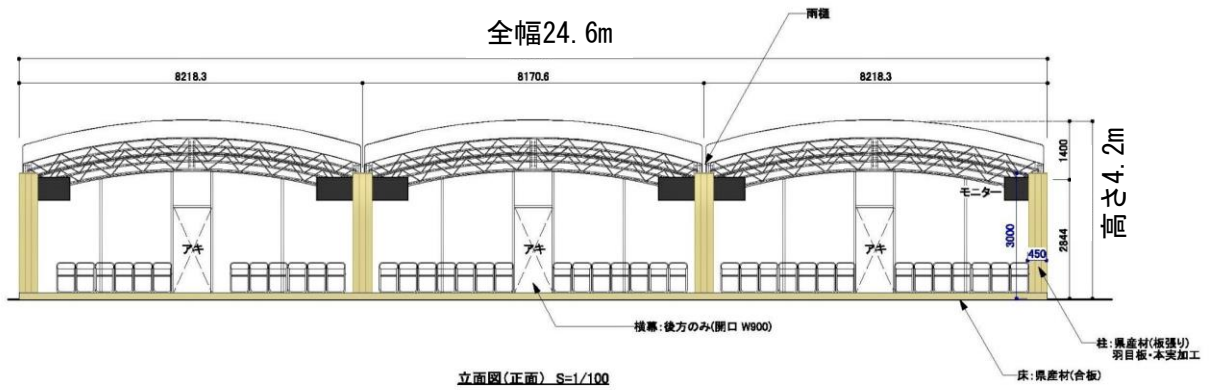


(2) 仮設工作物

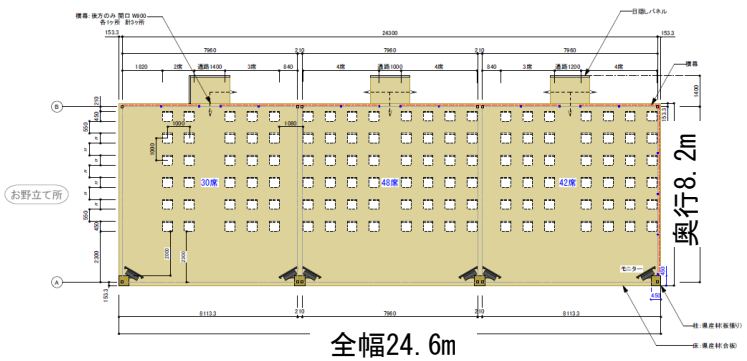
特別招待者席や式典音楽隊席等の仮設工作物は、県産木材を使用し、安全性、経済性及び周辺の景観に配慮したものとします。

■ 特別招待者席図

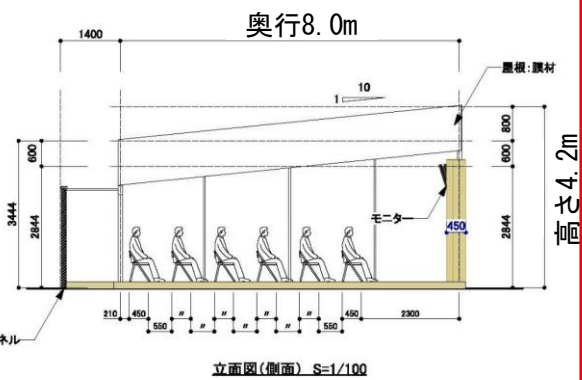
[正面図]



[平面図]

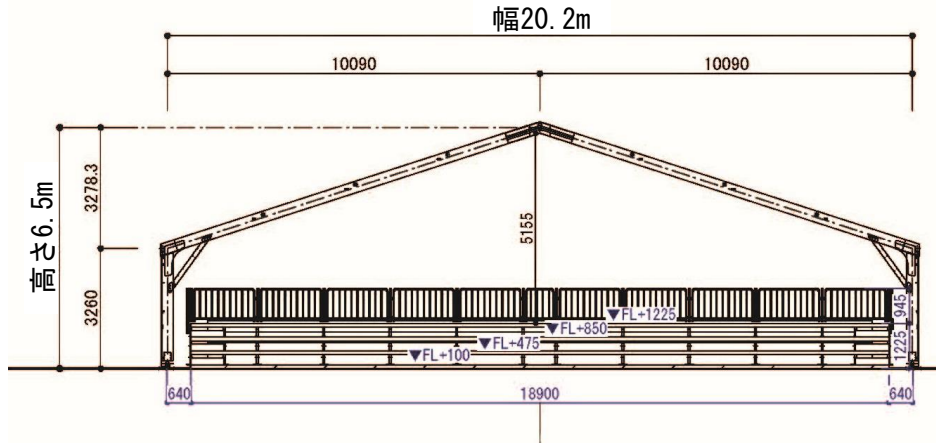


[側面図]

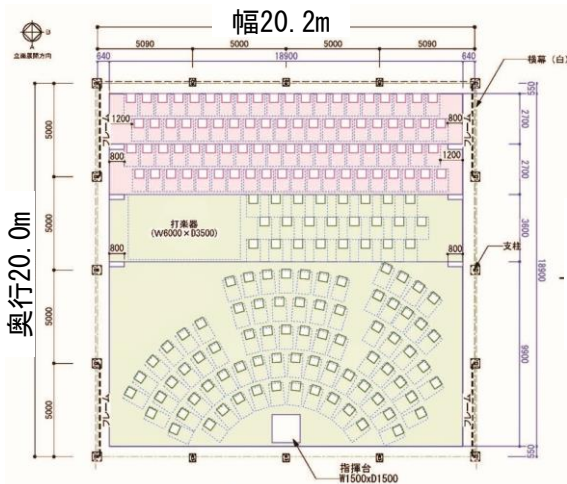


■ 式典音楽隊席図

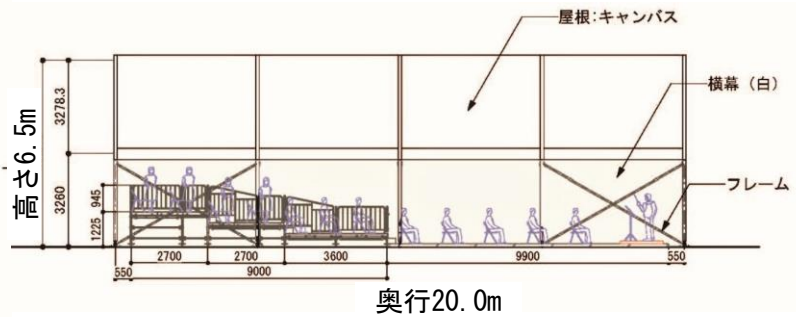
[正面図]



[平面図]

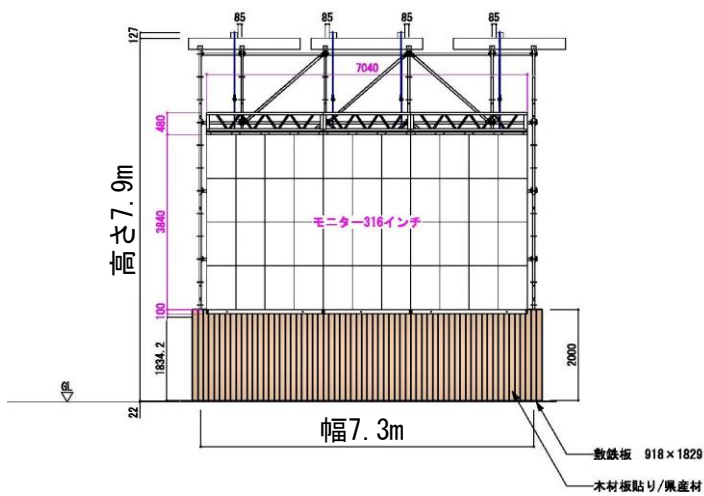


[側面図]

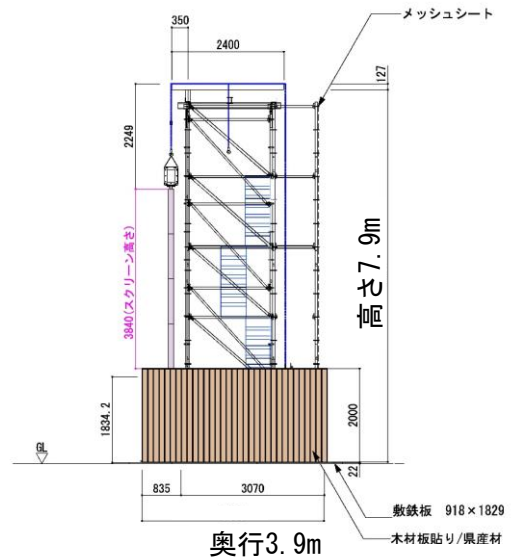


■ 大型映像装置図

高さ7.9m



高さ7.9m



奥行3.9m

(3) 会場内工作物

お手播き箱やベンチ、プランターカバー等の木製品などには、原則として県産木材を使用します。

また、安全性・経済性に配慮し、周囲の景観と調和を図ります。



[お手播き箱]



[ベンチ]

[参考: 会場内工作物(第70回全国植樹祭あいち大会)]



[プランター]



[三旗掲揚]

[参考: 会場内工作物(第72回全国植樹祭しが大会)]

4. 案内・誘導計画

- (1) 招待者が安全かつ円滑に式典行事や植樹行事等に参加することができ、各施設への移動に支障がないよう、各所に案内サインを設置します。
- (2) 案内サインは、ユニバーサルデザインに留意し、招待者が見やすい色彩、大きさにするとともに、視認性の良い位置に設置します。
また、ピクトサイン（絵文字）等を使用します。
- (3) 案内サインには、県産木材のほか、再利用可能な製品の活用等、環境に配慮した資材の使用に努めます。

設置区域	サイン種別	内容
会場全体	施設	・各エリア、施設等の名称の表示
	誘導	・招待者動線上に各エリア、施設等に誘導するサインの設置
	注意事項	・招待者動線上に遵守事項、安全管理事項、手荷物検査の協力要請事項、持ち込み禁止物に関する注意事項等の表示
式典会場	座席	・招待者の座席位置等の表示
	会場案内図	・会場内に現在地の表示を含む、全体図の表示
植樹会場	植樹地誘導	・植樹区画へ誘導するサインの設置
	植樹位置	・植樹区画を示すサインの設置
	式典会場誘導	・植樹終了後、招待者動線上に式典会場へ誘導するサインの設置
おもてなし 広場	誘導	・招待者動線上に各エリア、施設等に誘導するサインの設置
輸送バス	バス号車	・添乗員はバス号車を表示したプラカードを掲げ、招待者の誘導
	誘導	・会場周辺の動線に従い、バスを招待者乗降位置や駐車場に誘導するサインの設置

5. 飾花計画

- (1) 会場周辺の飾花は、県産の花を使用し、会場の雰囲気を引き立てるとともに、招待者の安全かつ円滑な動線が確保できるよう配置します。
- (2) お野立所に設置するフラワーアレンジメントは、県内農業高校生がデザインし、制作します。

種別	内容
プランター飾花	各エリアの区分や招待者の動線を明確にするとともに、会場の雰囲気を引き立てよう飾花を配置
フラワーアレンジメント	お野立所の両脇を彩る飾花 県産の花きを使用し、大会テーマ「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」等をイメージしてデザイン



[参考:プランター飾花(第72回全国植樹祭しが大会)]



[参考:フラワーアレンジメント(第72回全国植樹祭しが大会)]

■ 花の種類選定

No.	花名	花色	写真	特徴	設置場所	
					式典所	式典会場 及び周辺
1	八重咲りんどう (いわて八重の 輝きブルー)	青		リンドウ科で、岩手県が育成した雄しべが花弁となる珍しい八重咲きの花が特徴です。今大会では、お野立所を飾ります。花言葉は「誠実」。	○	
2	サフィニア	赤 黄 白 紫 ローズ		ナス科で、春から秋まで華やかに咲き続けるのが特徴です。花言葉は「咲きたての笑顔」。	○	○
3	サルビア	赤		シソ科で、茎の先端で穂となる濃い鮮やかな赤色の花が特徴です。花言葉は「家族愛」「尊敬」。		○
4	サンパチェンス	オーキッド オレンジ ピンク		ツリフネソウ科で、暑さに強く、春から秋まで鮮やかな花が咲き続けます。花言葉は「太陽のように輝く笑顔」。		○
5	ベゴニア	赤 白		シュウカイドウ科で、多肉質のハート型の葉が特徴で、鮮やかな花を咲かせます。花言葉は「幸福な日々」「片思い」。		○
6	ペチュニア	白 ピンク 紫		ナス科で、大輪、小輪、八重咲などの色々な園芸品種があり、様々な花色で親しまれています。花言葉は「心のやすらぎ」。	○	○
7	マリーゴールド	オレンジ 黄		キク科で、色鮮やかな黄色やオレンジ色の花が特徴です。花言葉は「可憐な愛情」「生命の輝き」。		○

6. 電気・給排水・通信設備計画

(1) 電気設備計画

会場内で使用する電源は、主に仮設電源（ジェネレーター等）を設置し対応します。

(2) 給排水計画

水は給水タンクを設置し、排水は回収後、適正に処理します。

分類	種類	内容
給水	手洗い水	・給水タンク一体型手洗いユニットで対応
	トイレ洗浄水	・給水タンクからの水で洗浄
排水	汚水・雑排水	・タンク貯蔵し、専門業者により回収・処理

(3) 仮設トイレ計画

式典会場、植樹会場、おもてなし広場などに適切な数量を設置するとともに、衛生面にも十分配慮します。



[参考：仮設トイレ（第72回全国植樹祭しが大会）]

(4) 通信設備計画

運営を円滑に行うため、携帯電話やトランシーバーなどの無線通信機器を適切に配置します。

1. 基本的な考え方

運営計画は、岩手らしさを発信する大会とするよう、次の事項を基本として実施します。

- (1) 全国からの招待者をおもてなしの心でお迎えし、開催の意義や理念を広く発信する場とします。
- (2) 運営は、市町村、NPO及び関係団体など、幅広い協力が不可欠であることから、各団体の意向を踏まえ、連携を図りながら進めます。
- (3) 大会で使用する資材等には、県産材を積極的に活用するとともに、プラスチック包装・容器等の使用を少なくするなど、環境に最大限配慮した大会を目指します。
- (4) 高齢者や障がい者をはじめ、全ての参加者の安全、安心を確保し、快適に、清潔に過ごせるよう、ユニバーサルデザインを意識しながら進めます。
- (5) 手洗い・消毒、マスクの着用、人と人との距離の確保等、基本的な感染対策を徹底し、安心・安全な大会を目指します。

2. 招待計画

(1) 招待者の区分及び規模

招待者区分	内訳	人数
① 県外招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人国土緑化推進機構理事長と岩手県知事との協議により定める者 ・第73回全国植樹祭岩手県実行委員会会長が推薦する者 ・各都道府県知事が推薦する者 等 	650 人
② 県内招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・第73回全国植樹祭岩手県実行委員会会長が推薦する者 ・岩手県の市町村長が推薦する者 ・公募による県民 等 	1,550 人
招待者小計 (①+②)		2,200 人
③ 実施本部員・協力員等	<ul style="list-style-type: none"> ・実施本部員、協力員、出演者 	2,000 人
合 計 (①+②+③)		4,200 人

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催規模を見直す場合があります。

(2) 運営にあたっての招待者区分

招待者区分		内訳	人数
①中央特別招待者		国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、 県議会議員、次期開催県知事 等	25 人
②特別招待者	県外特別招待者	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、 コンクール入賞者、 等	180 人
	県内特別招待者	県議会議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員 等	190 人
	小計		370 人
③一般招待者	県外一般招待者	各都道府県森林・林業関係者 等	445 人
	県内一般招待者	県内の森林・林業関係者及び県内公募による県民 等	1,360 人
	小計		1,805 人
招待者小計 (①+②+③)			2,200 人
④実施本部員・協力員等		実施本部員、協力員、出演者 等	2,000 人
合計 (①+②+③+④)			4,200 人

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催規模を見直す場合があります。

3. 招待者行動計画

(1) 前日スケジュール

時間	全体進行	① 中央 特別招待者	② 特別招待者		③ 一般招待者		④ 実施本部員等
			県外	県内	県外	県内	
		25人	180人	190人	445人	1,360人	
午前							
午後		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 駅・空港 ↓ 指定宿泊地 大会参加 受付 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 指定集合地 (前泊の場合) ↓ 指定宿泊地 大会参加 受付 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 駅・空港 ↓ 指定宿泊地 大会参加 受付 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 指定集合地 (前泊の場合) ↓ 指定宿泊地 大会参加 受付 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 指定宿泊地 大会参加 受付 </div>	

※ 招待者の行動計画は変更となる場合があります。

(2) 当日スケジュール

時間	全体進行	① 中央 特別招待者	② 特別招待者		③ 一般招待者		④ 本部員 協力員等	
			県外	県内	県外	県内		
		25人	180人	190人	445人	1,360人	2,000人	
			指定宿泊地	指定集合地	指定宿泊地	指定集合地	指定集合地	
			↓	↓	↓	↓	↓	
			到着					
			記念植樹					
			入場チェック					
			↓	↓	↓	↓		
			昼食・おもてなし広場自由見学等					
	おもてなし 広場	指定宿泊地					各配置 場所	
		↓						
		到着						
13:00	着席		着席					
	プロローグ		プロローグ					
14:00								
	式典	代表者植樹	記念式典					
15:00								
	エピローグ	会場出発	エピローグ					
15:25			会場出発					
	おもてなし 広場	↓						
		駅・空港						
			↓	↓	↓	↓		
			駅・空港	指定集合地	駅・空港	指定集合地		
							↓	
							指定集合地	

※ 招待者の行動計画は変更となる場合があります。

4. 受付計画

(1) 前日受付

宿泊する招待者は、大会前日、指定宿泊施設にて受付を行います。

宿泊施設には招待者専用の受付を設置し、円滑なチェックインができるようにします。

宿泊施設での受付業務は、実施本部員が行います。

(2) 当日受付

全国植樹祭当日の受付は、指定宿泊施設や指定集合地に招待者専用の受付を設置し、移動用バスに乗車する前に行います。

IDカードの紛失や大会用品等が不足した場合に備え、式典会場内にIDカード再発行所を兼ねた大会用品などのストックヤードを設け、不足品の対応を行います。

円滑な受付や記念品等の配付が行えるよう、関係者と連携を図ります。

招待者区分	受付日	受付区分	受付場所	業務内容
中央特別招待者	前日	宿泊受付	指定宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・検温・手指消毒 ・本人確認 ・記念品・大会用品の配付 ・宿泊案内の配付 ・ルームキーの引き渡し
県外招待者 (中央特別招待者を除く) 及び一部県内招待者	前日	宿泊受付	指定宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・検温・手指消毒 ・本人確認 ・記念品・大会用品の配付 ・宿泊案内の配付 ・ルームキーの引き渡し
	当日	バス乗車受付	指定宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・検温・手指消毒 ・IDカードの確認 ・本人確認
県内招待者	当日	入場チェック	式典会場	<ul style="list-style-type: none"> ・手荷物・IDカードの確認 ・入場チェック
		バス乗車受付	指定集合地	<ul style="list-style-type: none"> ・検温・手指消毒 ・本人確認 ・記念品・大会用品の配付
県内招待者	当日	バス乗車受付	指定集合地	<ul style="list-style-type: none"> ・検温・手指消毒 ・本人確認 ・記念品・大会用品の配付
		入場チェック	式典会場	<ul style="list-style-type: none"> ・手荷物・IDカードの確認 ・入場チェック

(3) 招待者に配付する記念品等

全国植樹祭の開催理念や大会テーマ、本県の自然や産業、観光資源、特産品等を全国に発信するため、記念品などを配付します。

記念品の選定にあたっては、岩手らしい県産品の活用を図るとともに、環境に配慮したものとし、遠方からの招待者の持ち帰りやすさにも配慮します。

式典の円滑な運営のため、以下の物品を配付します。

■ 配付物一覧

区分	① 中央 特別 招待者	② 特別招待者		③ 一般招待者		④ 出演 者等	⑤ 実施 本部員等
		県外	県内	県外	県内		
大会用品	大会プログラム	○	○	○	○	○	○
	帽子		○	○	○	○	○
	大会持込用透明袋	○	○	○	○	○	○
	雨合羽	○	○	○	○	○	○
	軍手		○	○	○	○	
	簡易座布団		○	○	○	○	
	アルコール ウェットティッシュ	○	○	○	○	○	○
記念品等	記念品	○	○	○	○	○	○
	観光ガイド等	○	○	○	○	○	

5. 特別接伴計画

特別接伴が必要となる中央特別招待者及び特別招待者には、実施本部員が次の対応を行います。

- (1) 移動は、借上車等の乗用車を使用します。
- (2) 前日は、出迎えから宿泊場所への案内等、常時サポートします。
- (3) 式典当日は、出迎えから見送りまで常時サポートします。
- (4) 行動を常時把握できる通信連絡体制を整備します。

6. 作品御覧計画

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの優秀作品及び第73回全国植樹祭大会ポスター原画作品を展示し、天皇皇后両陛下に御覧いただきます。

作品御覧の概要

- 【主催】 公益社団法人 国土緑化推進機構、岩手県
【出席者】 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール入賞者
第73回全国植樹祭大会ポスター原画作者

7. 御懇談計画

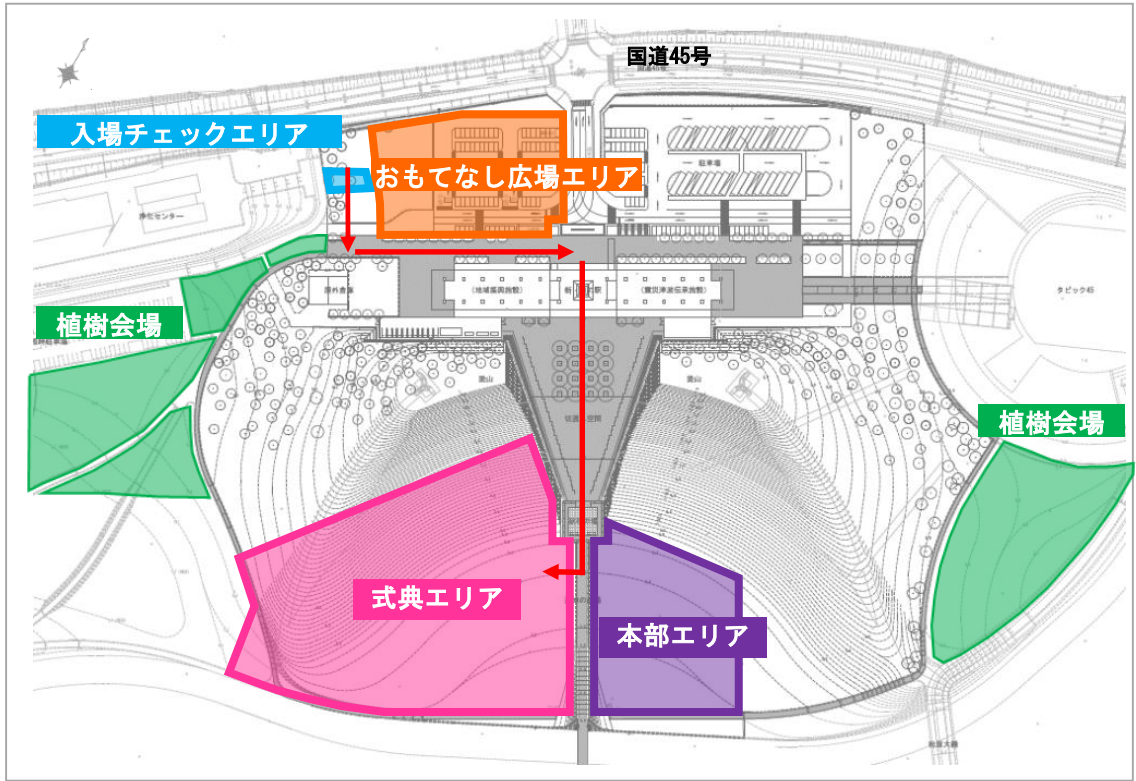
天皇皇后両陛下と、林業の振興や緑化の推進などに功労のあった方々との御懇談の場とします。

御懇談の概要

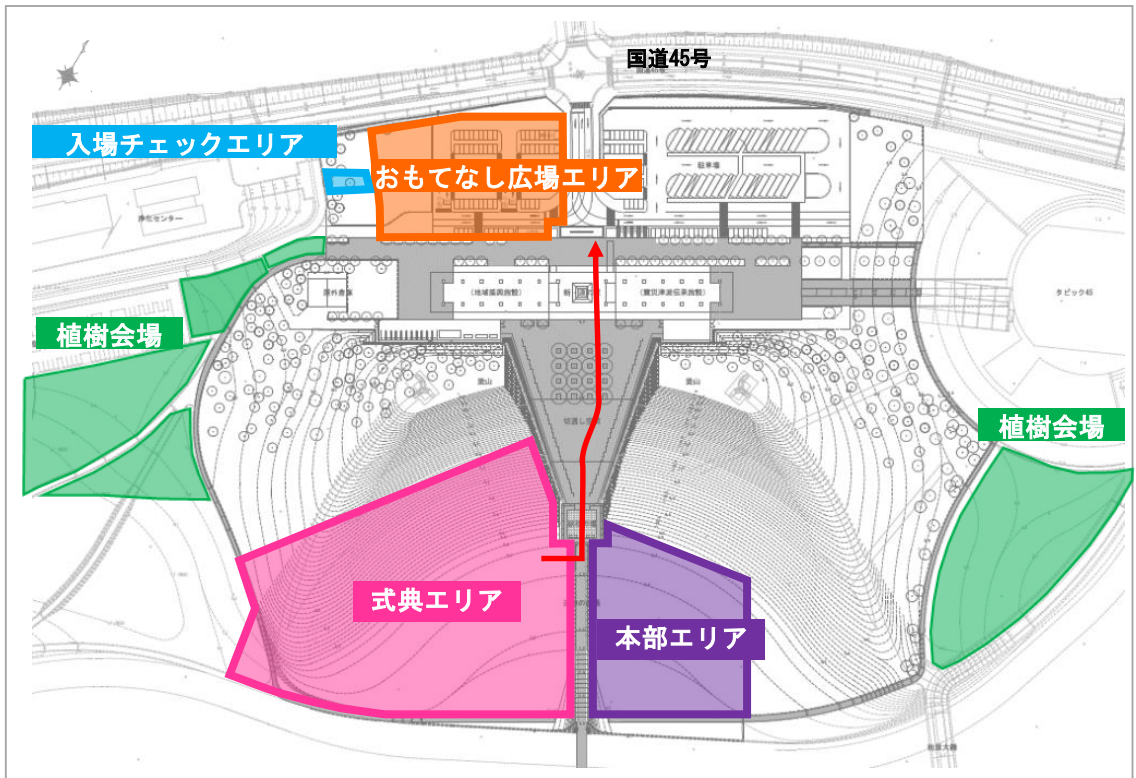
- 【主催】 岩手県
【御懇談対象者】 特別招待者等

8. 会場内動線計画

(1) 入場時の動線



(2) 退場時の動線



9. おもてなし計画

岩手県の森林づくりや、復興への歩み、郷土芸能、自然豊かな観光資源などを発信するとともに、式典会場においても、岩手らしいおもてなしの心をもって、招待者が快適に過ごせるように運営します。

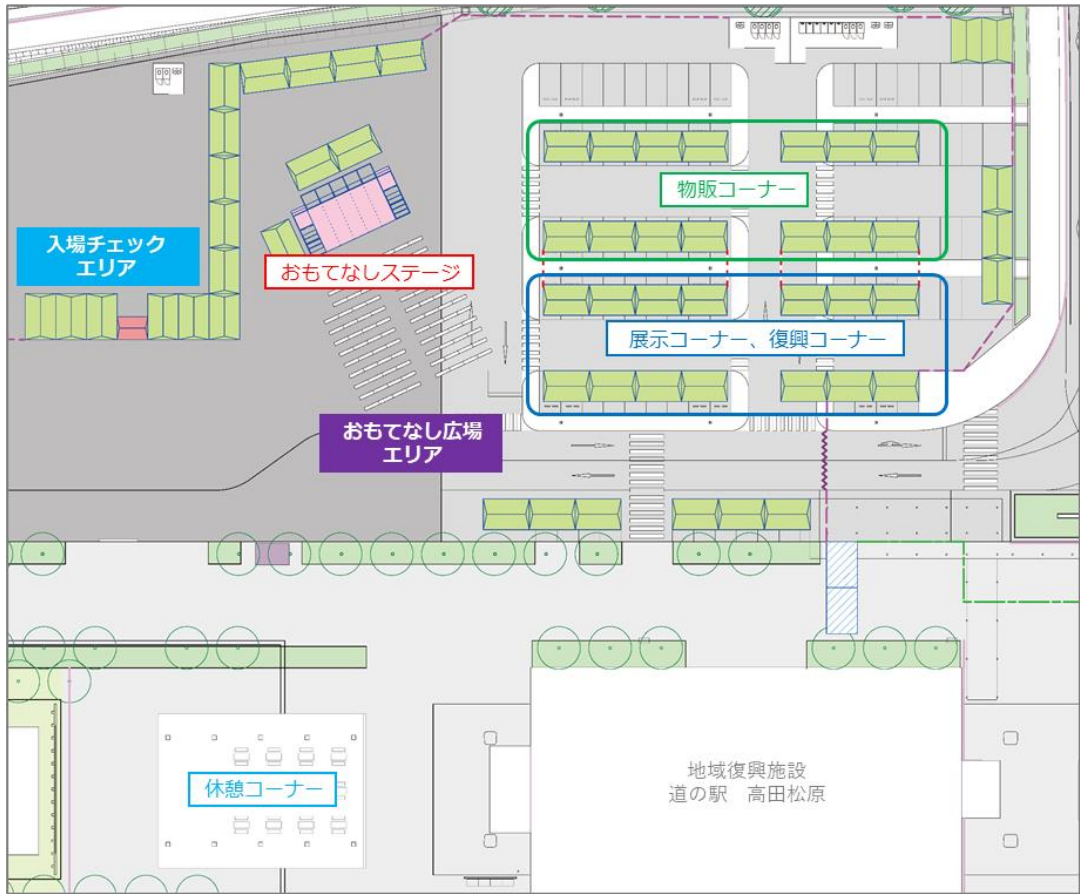
- (1) 式典会場内に「総合案内所」を設置し、招待者に対する各種案内や、各種パンフレットの配付、遺失・拾得物の管理を行います。
- (2) 式典会場内に「おもてなし広場」を設置し、招待者が安心して快適に過ごせるよう、湯茶接待所、休憩コーナー、救護所を配置します。
- (3) おもてなし広場には、展示コーナーやおもてなしステージ等を設置し、本県の森林づくりの取組や復興への取組、観光・県産品、岩手の郷土芸能等を招待者に広くPRします。

区 分	場 所	内 容
	総合案内所	招待者に対する各種案内、情報提供、案内誘導、各種パンフレットの配付、遺失・拾得物の管理
おもてなし広場	展示コーナー	県内の森林・林業、観光等の紹介
	復興コーナー	東日本大震災津波からの復興の歩みを紹介
	販売コーナー	県産品の販売
	おもてなしステージ	歌や踊り、郷土芸能等の披露
	臨時郵便局	記念切手の販売、郵便・宅配サービス
	湯茶接待所	参加者へお茶、ミネラルウォーター等を提供
	休憩コーナー	招待者の休憩場所
	救護所	参加者の体調管理・救護



[参考:おもてなし広場の様子(第72回全国植樹祭しが大会)]

■ おもてなし広場配置図



■ おもてなし広場イメージ



10. サテライト会場計画

式典参加者のみならず、多くの県民の方々に第73回全国植樹祭を身近に感じていただくため、盛岡市、北上市、久慈市の3か所にサテライト会場を設置し、式典を放映するとともに各種出展ブースを設置します。

イオンモール盛岡（盛岡市）

大型ショッピングセンターに常設される、イベントスペースに、サテライト会場を設置します。

【実施予定内容】

- ・式典中継
- ・木工製品の展示
- ・森林林業パネル展示
- ・音楽イベント 等



江釣子ショッピングセンター・パル(北上市)

地域の専門店を中心に地域の交流の場としても利用される商業施設に、サテライト会場を設置します。

【実施予定内容】

- ・式典中継
- ・木工製品の展示、販売
- ・木工体験
- ・森林林業パネル展示 等



道の駅「いわて北三陸」（久慈市）

令和5年（2023年）4月利用開始予定の、文化や観光など地域振興拠点として新規に設置される道の駅に、サテライト会場を設置します。

【実施予定内容】

- ・式典中継
- ・記念植樹
- ・木工製品の展示、販売
- ・木工体験
- ・森林林業パネル展示
- ・物産販売 等



11. 昼食計画

- (1) 県産の食材をふんだんに使用した岩手ならではの献立の弁当を提供します。
- (2) 納入業者は、製造能力及び運搬時間・距離等を検討のうえ選定します。
- (3) 衛生管理を適切に実施し、弁当の製造、輸送、保管、配付を行います。
- (4) 弁当などの容器・包装資材は、環境に十分配慮したものを使用します。
- (5) 招待者は、招待者席での昼食（弁当）とします。
- (6) 出演者・実施本部員等は、原則として、それぞれ業務に従事する場所での昼食（弁当）とします。
- (7) 新型コロナウイルス感染症対策として、人と人との距離をとった自席でのみ飲食できることとし、黙食を徹底します。
- (8) 弁当の配付については下表のとおりとし、効率的に配付します。

招待者区分	弁当配付場所・喫食場所	弁当配付時間
①中央特別招待者	式典エリア (特別招待者席)	式典前
②特別招待者	式典エリア (特別招待者席)	
③一般招待者	式典エリア (一般招待者席)	
④出演者・実施本部員等	本部エリア (出演者控所)	随時

12. 湯茶接待計画

- (1) 招待者、出演者等が快適に過ごせるよう、式典会場に湯茶接待所を設置します。
- (2) 湯茶接待所では、お茶やミネラルウォーターを提供します。



[参考: 湯茶接待所(第70回全国植樹祭あいち大会)]

13. 医療・衛生計画

(1) 救護所の設置

式典会場に救護所を3か所設置し、傷病者の医療救護を行います。

救護所には、救急用品や休憩用ベッド、AED等を備えます。

消防署や近隣の医療関係機関の協力を得て、緊急の場合の搬送・受入体制を整備します。



[参考:救護所の様子(第72回全国植樹祭しが大会)]

(2) 熱中症対策

場内放送で湯茶接待所の案内や、こまめな水分補給を呼びかけ、熱中症に対する注意を促します。

救護所には、経口補水液を備えるなど、適切な処置を行える体制を整備します。

(3) 衛生対策

保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。

食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供施設などへの指導を徹底します。

飲食等により発生する廃棄物の適切な処理を行い、各会場及びその周辺の環境美化に努めます。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策

ガイドラインを策定し、参加者の体調管理の確認徹底など、感染リスクの低減を図るとともに、体調不良者発生時に的確な対応を実施します。

14. 消防・防災・警備計画

(1) 基本的な考え方

招待者の安全を確保し、安心して参加できるようにします。

消防、警察、その他関係機関との協力体制を築き、密接な連携を図ります。

危機管理については、責任者を明確にし、迅速な初期対応ができるようマニュアル等を作成するとともに、事前研修を行います。

(2) 消防・防災

実施本部の安全衛生部（消防防災・警備班）が中心となり、異常の早期発見、通報に努め、火災及び災害発生時には、速やかに必要な処置を講じることができるよう、緊急時の体制を整備します。

会場内は、喫煙所を除いてすべて禁煙とし、主要施設には消火器を設置します。

サテライト会場の火気使用についても管理を徹底します。

(3) 地震津波対策

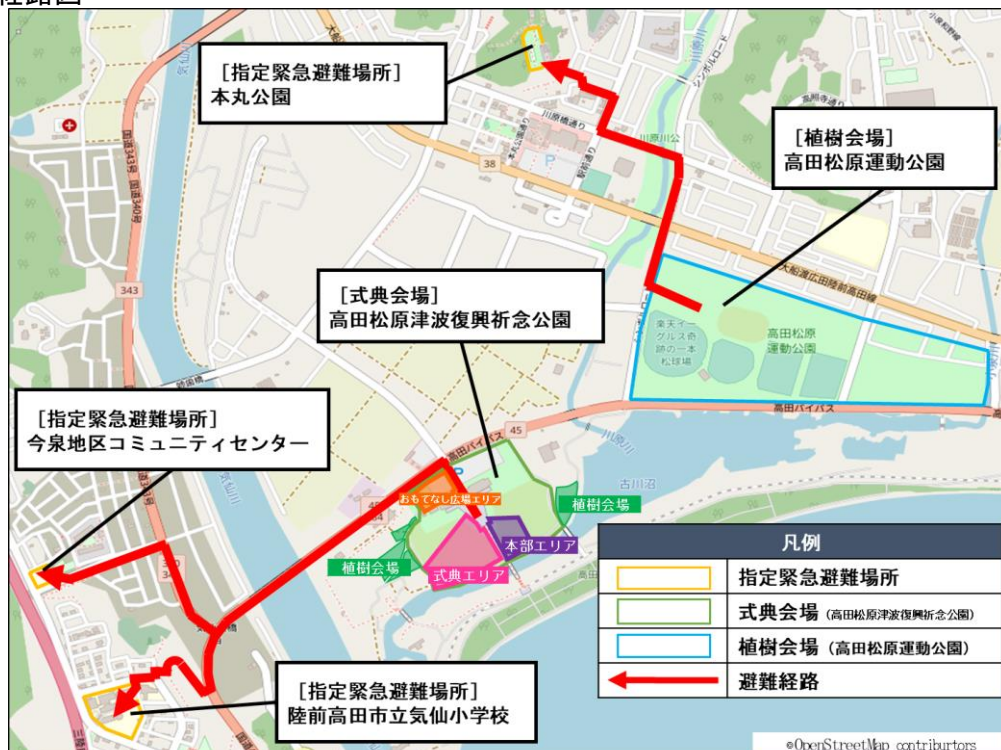
大会会場が東日本大震災津波時の津波浸水区域であることを大会プログラムに明記するとともに、IDカードの裏面に避難経路を記載するなど、参加者へ地震津波対策を周知します。

気象庁による津波警報の発表等、津波災害の発生のおそれがある場合は、あらかじめ設定した避難経路により参加者を避難所に誘導します。

(4) 避難計画

避難計画を策定のうえ、実施本部員等に周知徹底を図り、参加者全員が安全に避難できる体制を整備します。

■ 避難経路図



(5) 警備

会場内での事件・事故を防止し、全国植樹祭の円滑な運営を図るため、警察等の関係機関と協力して警備を実施します。

警備員や実施本部員等を配置して、警備や招待者の誘導を行います。

式典会場入場ゲートでは、入場者のIDカード確認や金属探知機による持ち物検査を行います。

【実施体制】

実施本部員から構成される消防防災・警備班が、専門の警備員と協力して警備を実施します。

【実施期間】

警備実施期間並びに重点期間の2段階を設定し、万全の対策を講じます。

- ・警備実施期間：全国植樹祭開催の準備段階から全国植樹祭終了まで
- ・警備重点期間：全国植樹祭当日

■ 業務内容

実施期間	目的	対策
警備実施期間	施設・備品の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・式典会場において全国植樹祭の開催準備段階から全国植樹祭終了まで、警備員による夜間警備を実施
警備重点期間	雑踏事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・式典会場において警備員及び実施本部員を会場内の要所に配置 ・入場チェックエリアや招待者動線において、滞留がおこらないよう実施本部員等による誘導案内を実施
	交通警備	<ul style="list-style-type: none"> ・式典会場及び植樹会場周辺の主要か所に、警備員及び実施本部員を配置し、歩行者の安全を確保 ・全ての関係車両に大会関係車両証の提示を義務化
	式典中の自主警備	<ul style="list-style-type: none"> ・実施本部員を式典会場内の招待者席付近に配置 ・事案発生時は警察と連携し、適切に対応
	立入禁止区域の設定 侵入防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・式典会場内の本部エリアや出演者控エリア等を立入禁止区域に設定 ・実施本部員等の配置・誘導、ローピング・サイン等により侵入防止対策を実施

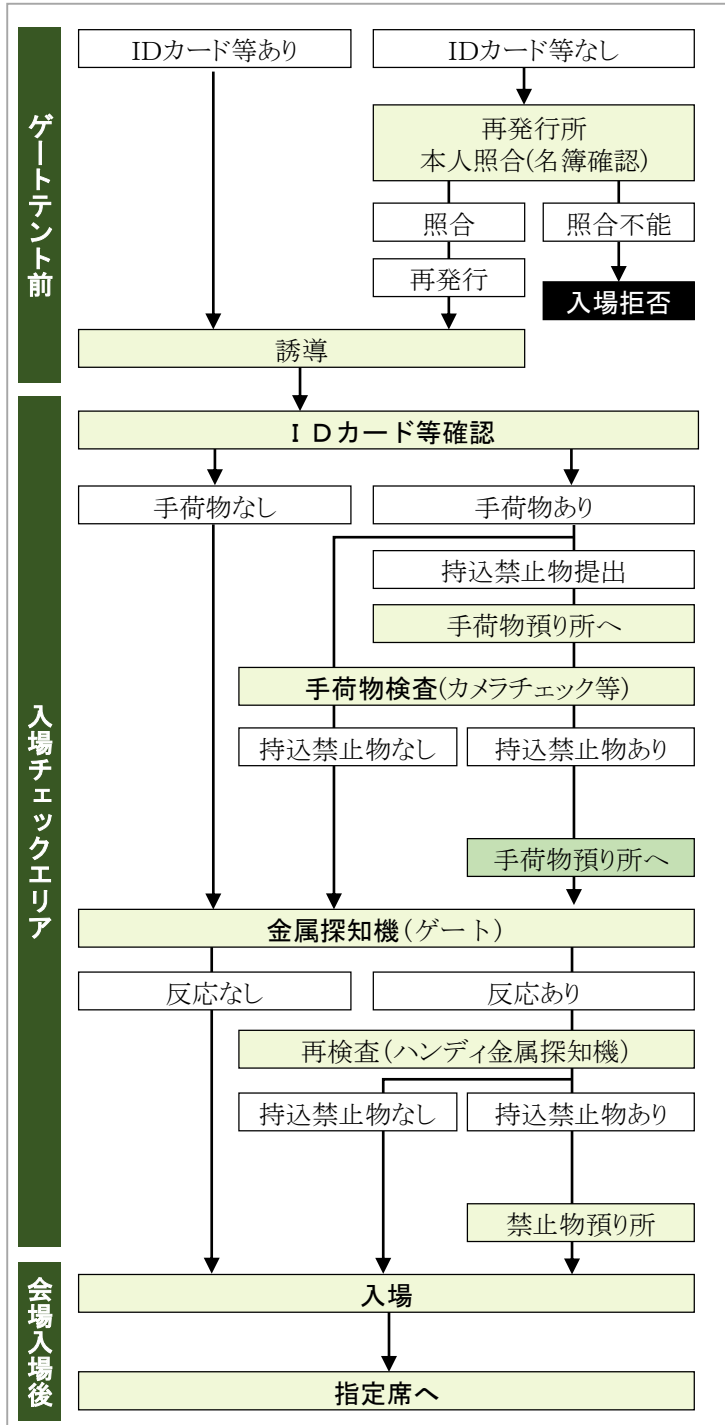
(6) 入場チェック計画

全国植樹祭当日に会場へ入場する者は、あらかじめ指定されたIDカード等の着用を義務付けます。

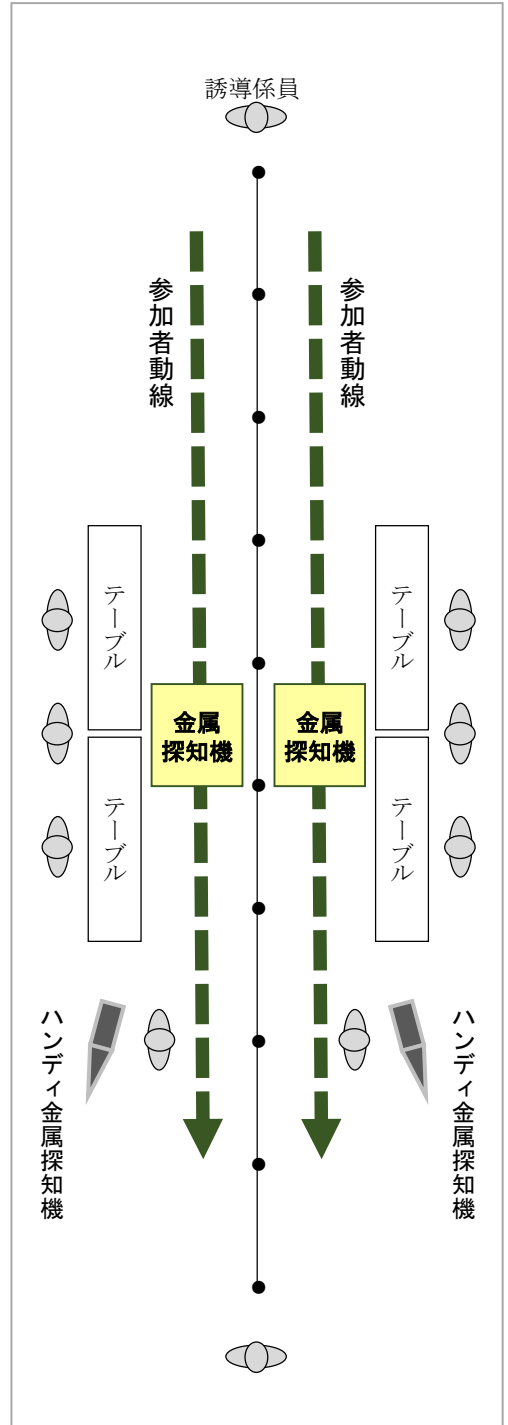
参加者の手荷物は、指定された透明袋に入れての持ち込みを原則とします。

凶器として使用されるおそれのある物品は、持ち込みを禁止します。

■ 入場管理の流れ



■ 金属探知機周辺図



15. 実施本部計画

- (1) 円滑な運営を図るための実行組織として、「第73回全国植樹祭岩手県実施本部」を設置します。
- (2) 県職員、市町村職員などの協力を得て効率的な要員の配置を行うとともに、運営の円滑化及び招待者の安全性や快適性の確保に努めます。

■ 実施本部体制図



16. 研修・リハーサル計画

円滑な運営に向けて、実施本部員・協力員の研修を行うほか、出演者を含めたリハーサルを実施します。

効果的な研修・リハーサルを実施するため、事前に各班の運営マニュアルを作成します。

また、下記の研修・リハーサル計画に基づき、全員が業務の内容を把握できるようにします。

(1) 実施本部員等の研修計画

実施本部員、協力員の研修は、事前の資料配付、各種説明会及び現地視察、リハーサルへの参加等により実施します。

(2) 研修・リハーサル計画

区分	時期	場所	参加者	内容
式典研修会等	令和5年3月	県内施設	出演者等	大会概要・参加内容説明他
式典リハーサル	令和5年 4月8日(土)	式典会場	出演者 実施本部員	式典行事のリハーサル
総合リハーサル	令和5年 4月22日(土)	式典会場	出演者 実施本部員 協力員	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、他
荒天会場リハーサル	令和5年 5月20日(土)	荒天会場	実施本部員	会場確認及び説明
最終リハーサル	令和5年 6月2日(金)	式典会場 植樹会場	出演者 実施本部員 協力員	全体通しリハーサル、車両・参加者誘導、接遇研修、非常時訓練他

17. 雨天時・強風時対応計画

- (1) 雨や風の状況に対応した式典スケジュールを策定するなど、雨天時や強風時にも円滑な運営ができるよう準備します。
- (2) 式典の演出は、事前に天候に応じて各出演団体と協議のうえ、天候に応じた内容に変更します。
- (3) 式典音楽隊の演奏が不可能な場合は、事前に演奏を収録した音源を使用します。
- (4) 警備上、会場には傘の持ち込みができないため、事前に雨合羽を配付します。

■ 雨天対策

項目	雨天時運営対策要領
服装	<ul style="list-style-type: none"> ・会場警備上、小雨・大雨に関わらず式典会場及び植樹会場での傘の使用原則禁止 ・雨天時の注意・禁止事項を事前に招待者へ案内 ・識別が透けて見える雨合羽の着用 ・招待者は、大会用品として事前配付する雨合羽を着用 ・招待者に対し、履き慣れた滑りにくい靴での来場を事前に告知
バス乗降案内誘導等	<ul style="list-style-type: none"> ・各招待者のバス乗降場所は晴天時と同様 ・雨合羽は会場到着前に余裕をもって着用いただくよう招待者に事前に案内 ・式典終了後、濡れた雨合羽の持ち込みは、バス車内が滑りやすくなるため、乗車前に回収 ・誘導時に使用する案内プラカードは、雨天時にも使用可能なものを使用
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・一般招待者の座席等を、招待者入場前に拭く

■ 強風対策

テントや備品、苗木等が強風で飛ばされないよう、必要な対策を実施します。
また、火気を使用する喫煙所の巡回を強化する等の対策を実施します。

1. 基本的な考え方

- (1) 東日本大震災津波からの復旧、復興に対する国内外からの支援への感謝の気持ちとともに、岩手らしいおもてなしの心をもって、宿泊・輸送業務に努めます。
- (2) 式典前日、宿泊招待者（主に県外招待者）は、第73回全国植樹祭岩手県実行委員会が指定する県内の施設に宿泊することを原則とします。
- (3) 式典当日は、原則、宿泊施設や県内各地に指定する集合地から第73回全国植樹祭岩手県実行委員会が手配する計画輸送バス等により式典会場などに移動することとします。
- (4) 宿泊施設の収容人数、宿泊料金、道路交通事情、送迎体制を総合的に勘案し、無理のない宿泊・輸送体制を整備します。
- (5) 招待者等の安全で円滑な輸送を図るため、運行ルート、輸送スケジュール及び必要な交通規制等について、関係者で綿密な打ち合わせを行うとともに、添乗員の配置・案内などにより快適な輸送体制を整備します。
- (6) 会場へのアクセス道路沿線は、関係市町村や県民の皆様と協力しながら、美化に努め、招待者を歓迎します。
- (7) 式典終了後、県外招待者の皆様には、視察コースを設定し、本県の森林のもつ役割や東日本大震災からの復興の歩み、岩手県の文化・歴史等の魅力を発信します。



[参考: 宿泊・輸送の様子(第72回全国植樹祭しが大会)]

2. 宿泊計画

- (1) 植樹行事及び式典行事のスケジュール、道路状況やアクセスなどを総合的に勘案し、適切な宿泊地域や宿泊施設を選定します。
- (2) 安全に計画輸送バスの乗降ができる場所（敷地内又は近隣）を確保できる宿泊施設を選定します。
- (3) 宿泊施設内のフロントやロビー等に専用デスクを設置し、招待者に大会用品など（第73回全国植樹祭関連資料、IDカード、帽子等）を円滑かつ確実に配付できる体制を整備します。
- (4) 宿泊施設の食事のメニューについては、本県の食のPRのため県の特産品を積極的に取り入れたメニューを提供するように努めます。
- (5) 消防法や食品衛生法等の法令に基づく基準を満たすことはもちろん、緊急時に搬送できる救急病院や緊急時対応者、施設内のAED（自動体外式除細動器）の設置状況を事前に把握し、万が一の事故に備えます。



〔参考：宿泊施設の専用デスクの様子（第71回全国植樹祭しまね大会）〕



〔参考：宿泊施設の専用デスクの様子（第72回全国植樹祭しが大会）〕

3. 輸送計画

(1) 輸送方針

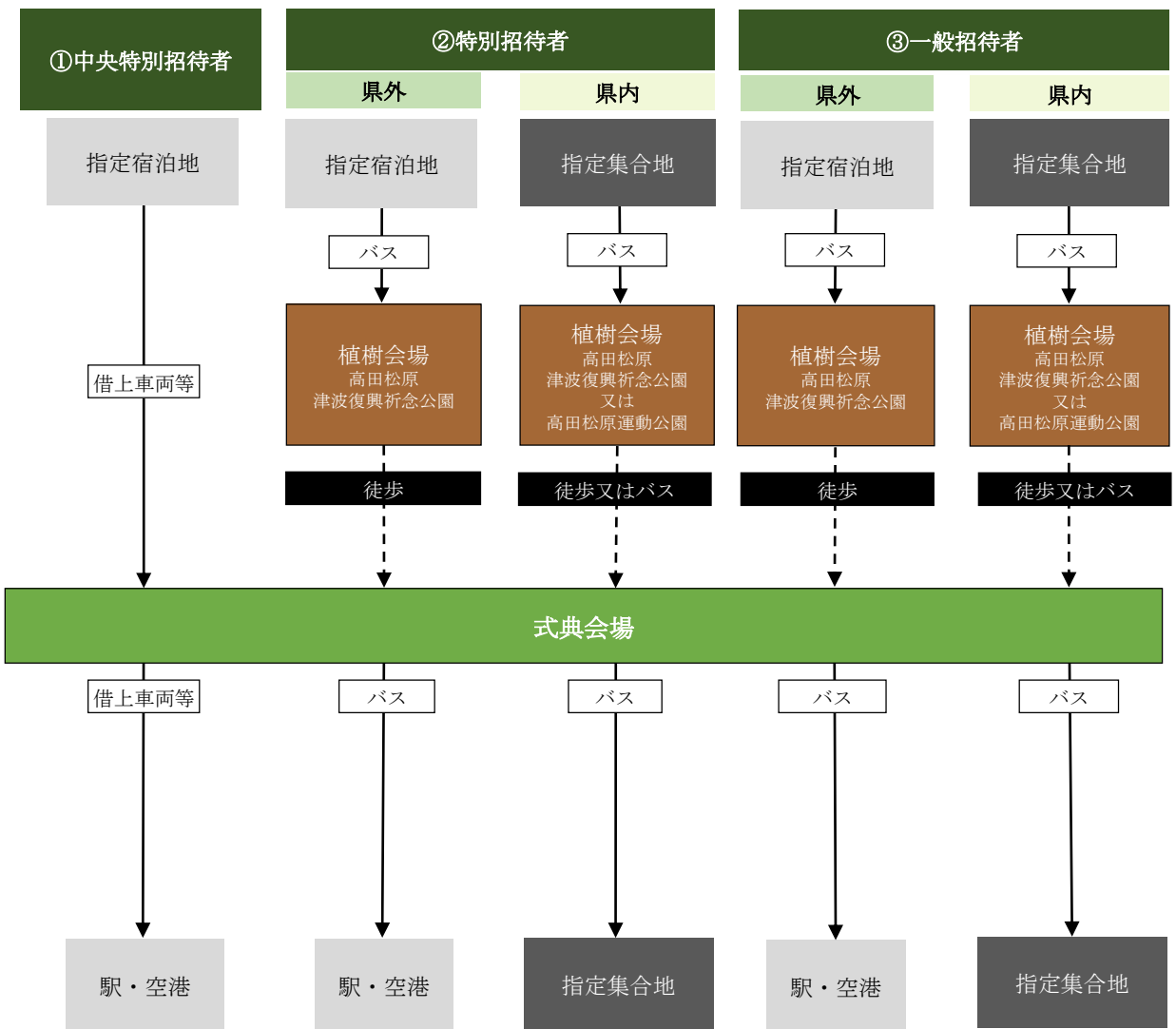
招待者はバスで移動することを原則とし、招待者区分ごとに輸送計画を作成します。

バス事業者や関係機関と協議・検討の上、招待者の安全で円滑な輸送を確保した運行ルートを決めます。

式典当日の道路混雑等のリスクを想定し、できるだけ最短の移動時間となるルートを設定します。

交通事故や渋滞等の不測の事態に備え、代替ルートや迂回ルートの設定を行います。

■ 輸送フロー



(2) 関係車両一覧

招待者区分	輸送手段	台数	同乗者	備考
中央特別招待者	借上車両等	約30台	接伴員	出迎え・添乗・誘導・見送り
県外招待者	計画輸送バス	約80台	添乗員	各種案内・誘導
県内招待者	計画輸送バス		添乗員	各種案内・誘導
実施本部員 協力員等	計画輸送バス	約50台	担当 班員等	出展者等搬出入を伴う場合は、 トラックを手配
合計	借上車両	約30台		
	計画輸送バス	約130台		

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、バスの台数を見直す場合があります。

(3) 駐車場計画

県内各地から集まる輸送バスを、計画的に会場へ送り出すため、会場近傍の高田松原運動公園に調整地を設け、会場周辺での渋滞の防止及び招待者の円滑な降車を図ります。

また、計画輸送バスの駐車場は、道路交通事情や津波災害時の対応を考慮し、会場の近傍地から選定し、一時的に確保します。

4. 運行管理体制・緊急時対応

- (1) 輸送管理本部を式典会場周辺に設置し、運行状況を一元的に管理します。
- (2) 車両の運行状況を把握し、安全で円滑な運行体制を実現するため、輸送ルート上に休憩所、計画輸送バス運行調整地を設けるとともに、バス添乗員の携帯電話等によりリアルタイムの連絡体制を確保します。

場所	内容
休憩所	・輸送時間の状況により、休憩所でトイレ休憩を行う
バス運行調整地	・会場周辺の渋滞の防止を図る

- (3) 県内招待者の指定集合地として、市町村役場等を指定し、効率的な輸送を行います。指定集合地の選定にあたっては、立地条件、バス・乗用車の駐車スペースの確保、トイレ・配付物の設置スペースなどを考慮します。

5. 道路交通対策

- (1) 会場周辺の道路や招待者の輸送ルートにあたる道路は、事前に道路管理者と協議の上、道路占用許可等の必要な措置を講じます。
- (2) 招待者及び周辺住民等の交通の安全の確保と車両の円滑な運行を行うため、関係機関の協力を得て、交通整理、交通規制などを実施します。



[参考:交通誘導サインの様子(第72回全国植樹祭しが大会)]

1. 基本的な考え方

- (1) 暴風雨、集中豪雨等の荒天に見舞われ、式典会場での式典が困難であると判断した場合は、荒天時会場での式典を行います。
- (2) 開催日の1週間前から随時情報収集に努め、式典会場での実施の可否を判断します。
- (3) 荒天時会場での実施決定に備え、関係機関と万全の連絡体制を構築し、円滑な実施運営を行います。

2. 荒天時会場

夢アリーナたかた（陸前高田市高田町）



3. 開催規模

県内外から参加する招待者、協力員、スタッフ等を合わせて645人程度の規模で開催します。

招待者区分		内訳	人数
中央特別招待者		国務大臣、公益社団法人国土緑化推進機構会長、県議会議員、次期開催県知事 等	25 人
特別招待者	県外特別招待者	県選出国會議員、中央官庁・団体関係者、緑化功労者、コンクール入賞者 等	180 人
	県内特別招待者	県議会議員、市町村長、緑化功労者、実行委員会委員 等	190 人
小計			395 人
実施本部員・協力員等		実施本部員、協力員、出演者	250 人
合計			645 人

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催規模を見直す場合があります。

4. 荒天時運営計画

(1) 式典計画

式典の構成を「記念式典」のみとし、大会テーマの表現や代表者植樹を除いた構成とします。

式典の時間は、50分程度とします。

(2) 式典スケジュール

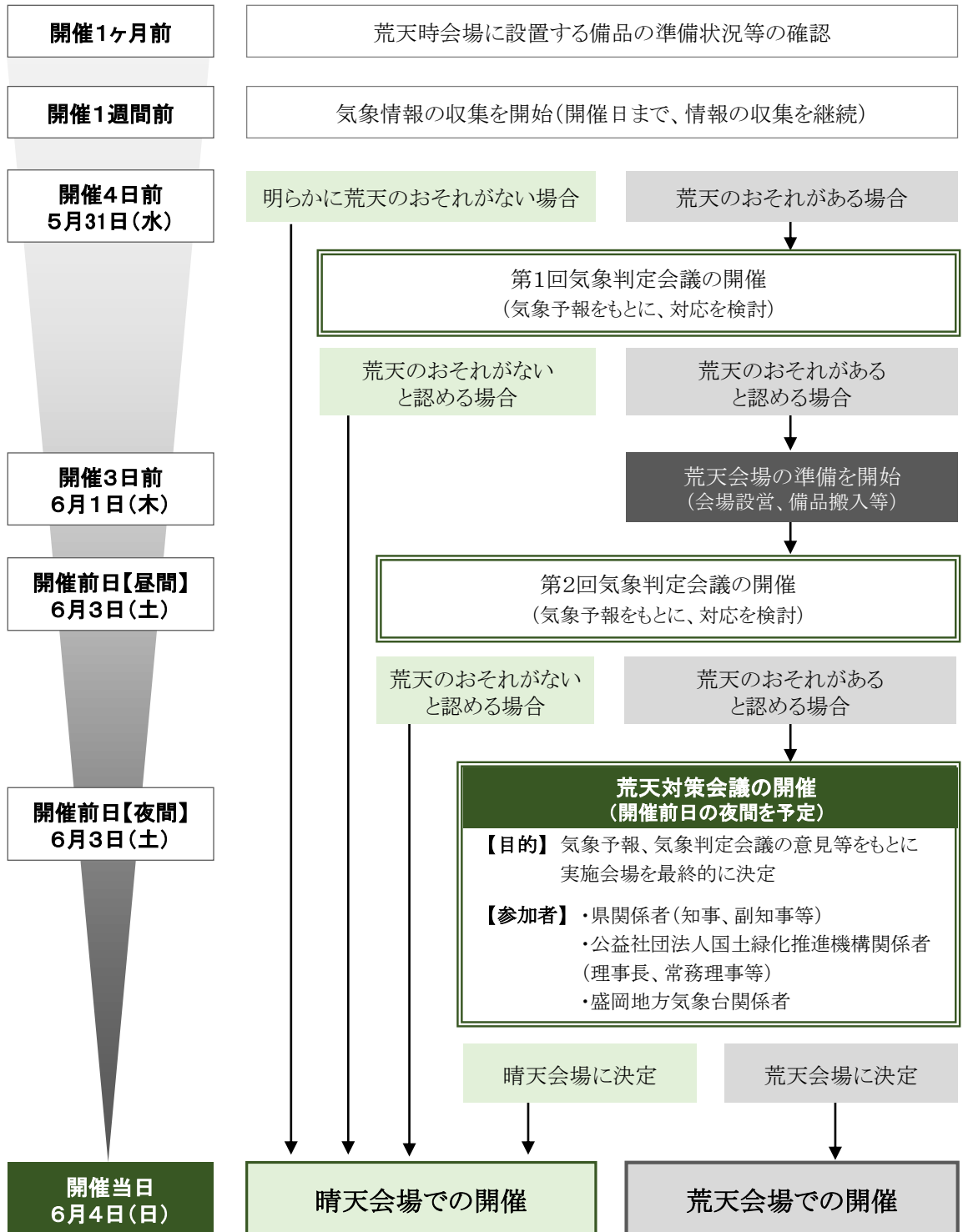
時間	区分	項目
10分程度	開場	招待者入場
		国務大臣、県知事、次期開催県知事、開催市町村長等 到着
50分程度	記念式典	天皇皇后両陛下御到着
		黙とう
		開会のことば
		国歌清聴
		主催者あいさつ
		天皇陛下のおことば
		表彰
		苗木の贈呈
		天皇皇后両陛下お手植え・お手播き
		大会宣言
		リレーセレモニー
		閉会のことば
天皇皇后両陛下御出発		
	閉場	招待者退場

(3) 判定会議

大会開催の可否について判断する会議（以下「判定会議」という。）を、必要に応じて設置します。

判定会議のメンバーや招集方法、大会の中止・変更の判断基準と対応について、事前に定めます。

(4) 荒天時対応判定フロー



※ 天候の急変等により、変更する場合があります。

(5) 荒天時の招待者への対応

当日の早朝にマスメディアやホームページ等を活用して、荒天会場に変更になったことを広報します。

荒天会場となった場合に不参加となる招待者に対しては、その旨を案内状等に明記します。

招待者区分		荒天時運営対応
中央特別招待者		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出発時間を変更のうえ、晴天時同様、借上車両等にて移動
特別招待者	県外特別招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出発時間を変更のうえ、晴天時同様、乗車受付を行い、計画輸送バスで移動 ・ 式典終了後、最寄りの駅等に輸送
	県内特別招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 晴天時と同様の出発時刻に指定集合地に参集 ・ 晴天時同様、乗車受付を行い、計画輸送バスで移動 ・ 式典終了後、指定集合地に輸送
一般招待者	県外一般招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定宿泊地にて、荒天会場での開催が決定した旨を伝達 ・ 最寄りの駅等に輸送
	県内一般招待者	<ul style="list-style-type: none"> ・ マスメディア、ホームページ、電子メール等を活用して、荒天会場での開催が決定した旨を伝達

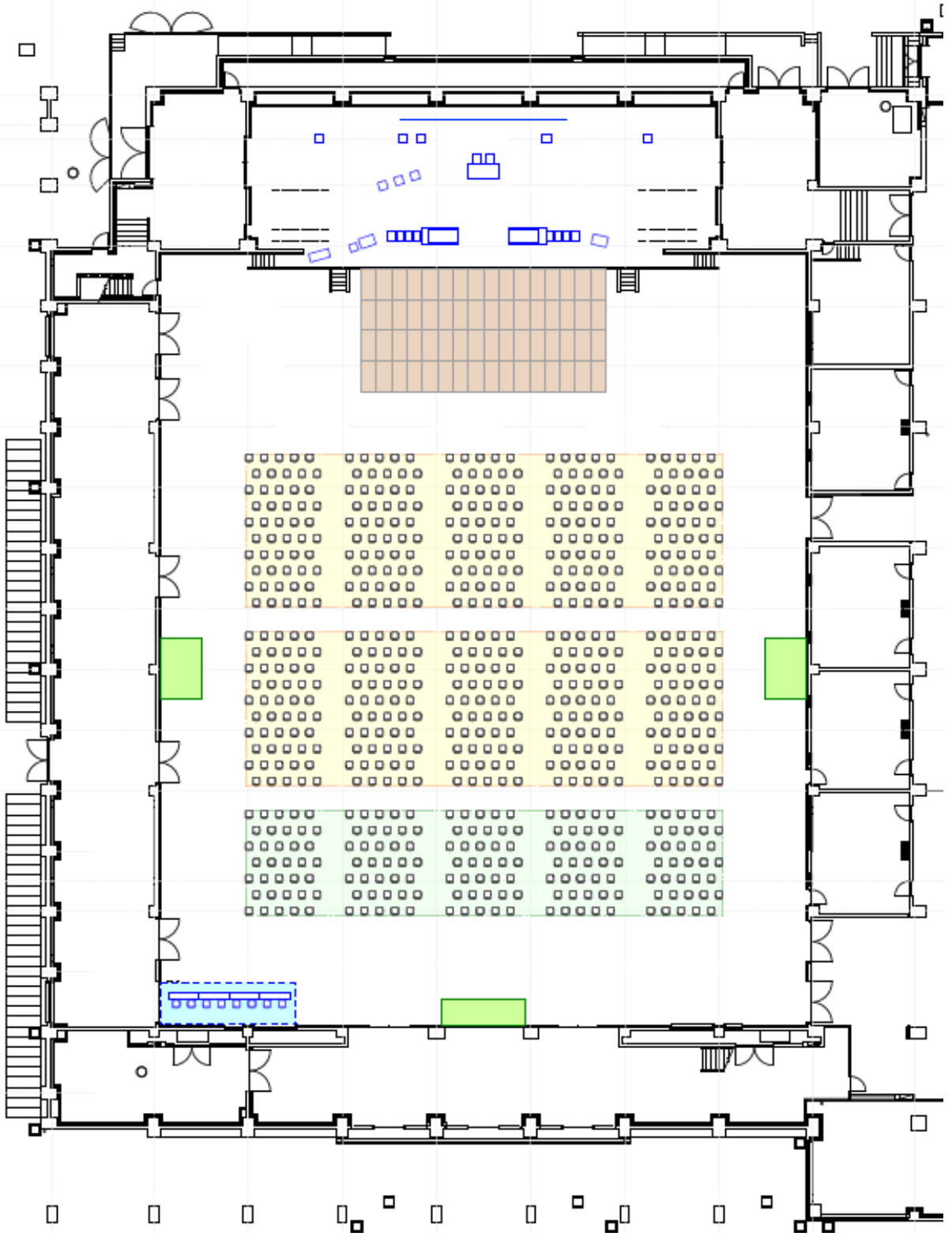
(6) 荒天時の招待者行動スケジュール

時間	全体進行	特別招待者		
		中央 特別招待者	県外	県内
		25人	180人	190人
50分	招待者入場開始	指定宿泊施設 ↓ 到着 ↓ 移動 ↓	指定宿泊施設 ↓ 到着 ↓ 到着後、順次入場チェック	指定集合地 ↓ 到着 ↓ 到着後、順次入場チェック
		昼食		
		招待者完全着席		
	式典	式典		
		順次会場出発		
		駅・空港	駅・空港	指定集合地

※ 招待者の行動計画は変更となる場合があります

(7) 荒天時会場図

[平面図]



1. 基本的な考え方

第73回全国植樹祭の開催理念を広めるとともに、森林づくりや木材利用の必要性について、県民の皆様に広く啓発するため、関連事業を実施します。

2. 関連事業の内容

(1) 第73回全国植樹祭 1年前記念イベント

大会の周知や開催機運の醸成を図るため、全国植樹祭の開催1年前の時期に、記念イベントを開催しました。

【開催日】 令和4年(2022年)7月9日(土)

【開催地】 岩手県県民の森(八幡平市)

【来場者数】 約1,000人

【内容】 ①記念式典

知事感謝状贈呈、代表者記念植樹、緑の少年団活動報告・みどりの誓い、木製地球儀リレー出発式、大会テーマソング発表 ほか

②植樹(シラカバ530本、アジサイ150本)

③PRイベント

全国植樹祭のPR、木工品の展示・販売、ステージイベント、苗木のプレゼント ほか



(2) カウントダウンイベント

第73回全国植樹祭の開催日決定を受けて、開催機運を盛り上げるため、開催日の200日前及び100日前の日にカウントダウンイベントを開催します。

○ 開催200日前カウントダウンイベント

【開催日】 令和4年(2022年)11月16日(水)

【開催地】 岩手県庁

【内容】 カウントダウンボード除幕式 等

○ 開催100日前カウントダウンイベント

【開催日】 令和5年(2023年)2月25日(土)

【開催地】 陸前高田市内

【内容】 木製地球儀リレー巡回終了セレモニー 等



(3) 木製地球儀リレー

大会の周知や全県的な開催機運の醸成を図るため、全国植樹祭のシンボルである「木製地球儀」を県内市町村で巡回展示します。

令和4年(2022年)7月9日に、八幡平市(第73回全国植樹祭1年前記念イベント)で出発式を行い、最終巡回地である陸前高田市において、令和5年(2023年)2月24日に展示終了の予定です。



(4) 苗木のスクールステイ

緑の大切さと森づくりへの関心を高めるため、県内の小中学校等の協力により、第73回全国植樹祭で植樹する苗木の一部を育成します。

- 【取組期間】 令和3年(2021年)～令和4年(2022年)
- 【開催地】 県内各地
- 【協力団体】 県内62の緑の少年団・小中学校



(5) 県内各地での緑化活動

県内各地で開催される森林づくりや環境緑化活動等の取組と連携し、第73回全国植樹祭の開催理念の普及啓発や情報発信などを行います。



(6) 県内市町村イベントにおける事前PR

市町村の産業まつり等の各種催事と連携し、第73回全国植樹祭の開催理念や取組を幅広い年齢層にPRし、大会に向け継続した機運醸成を図ります。

- 【開催時期】 令和3年（2021年）秋季～令和5年（2023年）春季
- 【開催地】 県内各地
- 【内 容】 市町村産業まつり等各種催事・祭事でのPR



(7) 緑の少年団の活動

緑を愛し育てる豊かな心を育むこと等を目的に活動している県内の緑の少年団が一堂に会し、開催される「緑の少年団大会」等と連携し、第73回全国植樹祭の機運醸成を図るとともに、情報発信などを行います。

○ 岩手県緑の少年団大会

- 【開催日】 令和4年（2022年）7月29日（金）
- 【開催地】 岩手県県民の森（八幡平市）
- 【内 容】 県内外から参加した11の少年団（約150人）が、ミズナラ等約200本の植樹、第73回全国植樹祭を彩るプランターの木製カバーの制作などを行った。



(8) 第51回全国林業後継者大会

全国の林業関係者が一堂に会し、林業の振興と森づくりの重要性を再認識し、森林を育て活用し、県民運動を推進することにより、林業技術と元気な森林・林業を未来に引き継ぐことを発信するための大会を開催します。

- 【開催日】 令和5年（2023年）6月3日（土）（第73回全国植樹祭開催日の前日）
- 【開催地】 盛岡市内（盛岡駅周辺の施設）
- 【内 容】 林業者の活動報告、パネルディスカッション等

(9) 記録誌の発行、記録映像の作成

第73回全国植樹祭の式典行事、植樹行事をはじめ、各種関連事業などの取組を、記録誌や記録映像等にまとめ、関係機関などに配付します。

■ 関連事業の実施位置図

R4.7.29 緑の少年団大会(八幡平市)



木製地球儀リレー

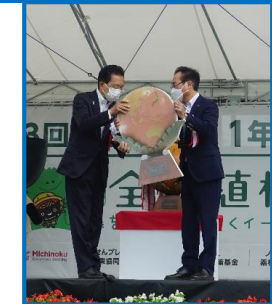


R4.7.9 1年前記念イベント(八幡平市)



サテライト会場(久慈広域道の駅)

全国林業後継者大会会場(盛岡市内)



サテライト会場(イオンモール盛岡)

サテライト会場(江釣子ショッピングセンター・パル)

R3.10.2 第13回いわての森林の感謝祭(釜石市)



苗木のスクールステイ



式典会場・植樹会場(高田松原津波復興記念公園)(高田松原運動公園)



【凡例】

- 木製地球儀リレー(全市町村を巡回展示)
- イベントにおける事前PRや緑化活動(県内各地で実施)
- 苗木のスクールステイ

1. 基本的な考え方

- (1) 広報宣伝や協賛募集の活動を通じて、大会の開催意義、開催理念及び内容、大会に向けた様々な取組等について広くPRするなど、開催への機運を高めていきます。
- (2) 豊かな森林づくりの恩恵を受けて暮らしていることやその恵みを未来へと引き継いでいくため、県民が「いわて森林づくり県民税」等で支援していることを併せてPRします。
- (3) 広報媒体の特性を活かした情報発信により、効果的な広報活動を実施します。
- (4) 大会テーマ、シンボルマーク及び大会ポスター原画を活用し、第73回全国植樹祭の開催を県内外に広報します。

2. 広報計画

(1) インターネットの活用

第73回全国植樹祭の公式ホームページを開設し、様々な関連イベントや県内の森林づくり等に関する情報を積極的に発信します。

(2) 公共広報等の活用

県及び各市町村の広報や広報番組等の公共広報媒体を有効活用し、広く県民に向けて、きめ細かな情報提供とPR活動を実施します。

(3) マスメディアの活用

テレビ、ラジオ、新聞等、各報道機関との連携を深めるとともに、第73回全国植樹祭関連事業などに関する情報が広く発信されるよう、情報提供します。

(4) 企業・団体等との連携

シンボルマークやロゴマークの使用を広く呼びかけるなど、企業・団体等の支援や協力による広報活動を通じ、大会開催の周知を図ります。

また、企業・団体等と連携したイベントを通じて、来場者に向けたPR活動を実施します。

(5) 全国植樹祭情報誌等の発行

「第73回全国植樹祭だより（緑のかけはし そばっち通信）」を発行し、大会に向けた取組状況や県民参加の森林づくり活動等に関する情報を発信します。

(6) PRグッズの作成・配付

シンボルマーク等を用いた各種PRグッズを作成し、各種イベントなどで配付することで第73回全国植樹祭の周知と機運の醸成を図ります。

3. 協賛計画

第73回全国植樹祭に向けて、「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」や「三陸防災復興プロジェクト2019」などで、これまで育んだ「つながり」を生かしながら、この趣旨に賛同する団体や企業等と協働・連携した開催とするため、県内外から幅広い協力を得る仕組みとして、協賛制度を創設します。

協賛企業には、第73回全国植樹祭会場や公式ホームページ、記録誌等で協賛者名を掲載するなど、様々な特典を提供します。

(1) 資金協賛

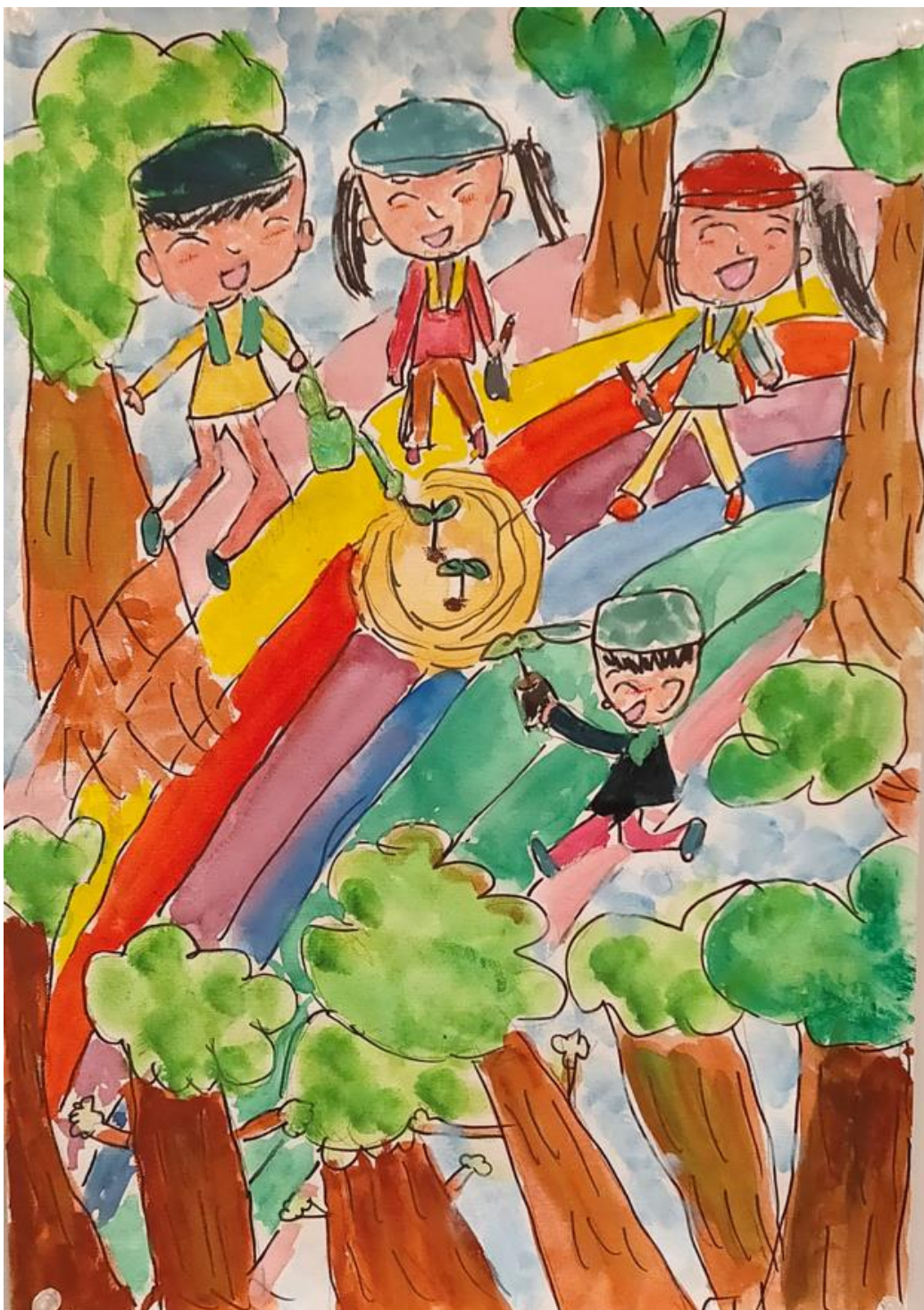
第73回全国植樹祭や各種関連行事等の開催に関わる資金協力

(2) 物品協賛

第73回全国植樹祭や各種関連行事等の開催に関わる物品協力

(3) その他の協賛

車両・機器等の貸与や役務提供、広告活動等による広報などの協力



第73回全国植樹祭 実施計画

令和5年1月

第73回全国植樹祭岩手県実行委員会事務局 (岩手県農林水産部全国植樹祭推進室)

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸11-1

電話番号：019-629-5790 ファクス番号：019-629-5783

ホームページ：<https://syokujusai-iwate2023.jp/>

または、「全国植樹祭 岩手 2023」で検索してください。

